

miu

STUDY ABROAD MANUAL ***2026***



宮崎国際大学 海外研修の手引き

令和 8 年度

目 次

はじめに.....	1
I. 海外研修の概要	
1. 海外研修プログラムの内容について.....	2
2. グローバル教育センターの業務内容について.....	3
3. 海外研修先大学と安全の確保.....	3
(1) 研修先大学の選考基準について.....	3
(2) サイトメンター(現地指導教員)について.....	3
(3) 研修中の危機管理及び安全の確保について.....	3
4. 海外研修履修要件等.....	5
(1) 履修コース概要および単位(本学のカリキュラム上の「海外研修科目」)について.....	5
(2) T O E I Cの点数について.....	5
(3) ポートフォリオ(海外研修の課題)について.....	5
(4) 海外研修科目の成績について.....	6
5. 海外研修実施日程等.....	6
(1) 海外研修へ出発までのスケジュール等について.....	6
(2) 海外研修へのお出発について.....	7
6. 海外研修に係わる準備等.....	7
(1) 海外研修先大学の選択について.....	7
(2) 海外研修先大学の選定・決定について.....	8
(3) 海外研修に係わる諸手続とそのスケジュールについて.....	8
a. レントゲン撮影について.....	8
b. パスポートの提出について.....	8
c. TOEFL (IBT) 及び IELTS テストスコアについて.....	8
d. 写真の提出について.....	9
e. 研修先の決定について.....	9
f. 海外研修先大学・ホストファミリー会社への申込みについて.....	9
g. 結核と予防接種の証明について.....	9
h. 学生ビザの申請について.....	10
①学生ビザ申請の有無と入国に必要な書類や手続等(2024年度)について.....	10
②入国時に必要な書類.....	11
③預金残高証明書について.....	11
7. 海外研修期間中の健康管理について.....	12
(1) 医療保険.....	12
a. M I U 指定海外留学保険(学研災付帯海外留学保険).....	12
b. オーストラリアへ行く学生の保険.....	14
c. 研修先大学に独自の保険がある場合.....	14
(2) 研修先大学の医療サービス.....	14
(3) 現在健康に問題がある場合(持病等)の対応.....	14
8. 旅行計画の作成について.....	15
(1) 航空券の購入について.....	15
(2) 研修前後の計画について.....	15
(3) 自動車等の運転について.....	16
(4) 海外送金(現地通貨の取得)について.....	16
<現地で銀行口座を開く>.....	16
<プリペイドカード等を使う>.....	17
(海外専用プリペイドカード等).....	17
<カード類について>.....	17
(プリペイドカード、デビットカード、クレジットカードについて).....	17

9. 海外研修事前指導セミナーについて	17
<各研修先でのオリエンテーションについて>	18
10. 宿泊施設について	18
<ホームステイに関する留意事項>	19
1) ホームステイの利点と欠点について	19
2) ホストファミリーでの食事について	20
3) 通学等について	20
4) 問題の対処について	20
11. カルチャーショックについて	21
<海外研修を終えた学生からのアドバイス>	21
12. 起こりうる典型的問題と不満について	21
13. 学内研修について	22
14. グローバル教育センターと保護者のミーティングについて	22
(1) 三者面談	22
(2) 保護者説明会	23
15. 緊急連絡先について	23
16. 海外研修単位取得に係るガイドライン及び同意承諾・誓約書	24
<ポートフォリオ（諸課題集）作成について>	24
(1) 英語セクション	24
(2) 自由研究セクション	24
(3) ・ (4) 地域研究セクション1 & 2	25
(大学の正規授業を受講する場合)	25
<重要事項の確認>	26
参考資料－1	
1. 在日公館リスト	27
2. 在外公館リスト	28
参考資料－2	
各研修先大学の紹介	31
オーストラリア及びニュージーランド	32－35
カナダ及びアメリカ合衆国	36－43
イギリス	44－45
参考資料－3	
令和6年度海外研修先大学諸情報リスト	46－48
参考資料－4	
残高証明書	49－50
参考資料－5	
キャッシュパスポート	51－55
参考資料－6	
シムカード	56－57

はじめに

副学長(国際教育・国際連携等担当)
西村 直樹

1994年の開学以来、国際教養学部では、ほぼ全ての授業を英語で行う「国際的リベラル・アーツ教育」を実践しており、海外研修はそのカリキュラムの中核的役割を担い、必修となっています。入学以来1年半、学内で、「英語で」リベラル・アーツ教科を学んできた学生に対し、海外研修は、「授業英語(学問英語)」ではなく、英語で日常を生きるための「実践的英語」を習得する機会を提供します。また、学生に、自らを異文化の中に置き、これまで机上で学んできた諸学問、課題、異文化の知識を実体験として比較文化的視点で考察する機会を提供することで、異文化理解のみならず、日本文化に対する理解を深める格好の機会も提供します。しかし、その成果は、学生がどれだけ積極的に現地の文化(諸行事・活動等)や人々と関わるかによって大きく異なることを忘れないでほしいと思います。英語を積極的に聞き、話し、現地の人達と交流する。そうすれば、「何か」が変わります。その後の人生に大きな肯定的影響を与える「変化」が生まれます。

研修先大学は、5カ国(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド)に16大学あり(変更の可能性有)、研修中、学生は各大学の英語集中(ESL)プログラムに所属し、フルタイムの学生としてそれぞれの英語力に合ったクラスで授業を受けますが、同時に、1学期間を通して、自由研究論文を含むポートフォリオ(要件:15,000ワード以上)の作成が課されます。学生は、英語力を、授業を通して向上させる一方、その成果をポートフォリオの作成に活かし、さらに英語力を磨くことになります。また、多くの研修先大学において、学生にボランティア活動に参加する機会を提供しており、そのような体験、あるいはホームステイ体験を通して、学生は英語での実践的コミュニケーション能力、異文化理解、また、日本に対する理解も深め、いわゆる「グローバル人材」のスキルを身につけていきます。

「海外に行けば英語ができるようになる」という話がまことしやかに話されますが、理論的にも、また、過去の多くの学生たちのデータから見ても、それは事実ではありません。少なくとも、グローバル社会が必要とする英語力は、ただ「海外に行けば…」だけでは到底身につけることはできません。テストの点数を上げるだけならば日本で十分出来ます。海外研修の主要な目的は、前にも触れた通り、多くの異なった文化を持つ人たちとの交流を通して、他人を理解し、自分を理解し、また理解してもらうことで、総じて、総合的コミュニケーション能力(社会的知性)を高めることにあります。そのための英語力を磨くことこそが、日本での英語学習と大きく異なるところです。総合的コミュニケーション能力を向上させ、その手段としての英語力を大きく伸ばし、その後の専門教育での学修と卒業後の進路に備える。海外研修はそのための学習と体験を授業内外で積み上げる絶好の機会となります。

本学の海外研修は、1学期間という比較的長い留学となるため、それなりの費用がかかります。海外研修参加者には、その費用を無駄にしないよう、何事にも積極的に取り組むことを期待しています。

I. 海外研修の概要

入学後1年半の学修課程を終えた後、学生は、原則、英語を母国語としている国の大学へ海外研修に出ます。海外研修の主要な目的は以下の通りです。1)実践的英語運用能力の育成(実践的英語力の育成)、2)異なる言語、文化、価値観を乗り越えて建設的人間関係を構築することができるコミュニケーション能力と協調性の育成(グローバルコミュニケーション能力の育成)、3)それら培った能力を活用し、自ら見いだした課題を考察し(課題発見・考察能力の育成)、4)自分なりの結論を導き出す思考能力の開発・育成(クリティカル・シンキング力の育成)。学生は授業で自らの英語力を磨きつつ、滞在する国・地域を理解する努力を重ね、そして、それらを活かし、自らの研究課題に基づき一編の研究論文を作成します。

海外研修(「渡航」を伴うもの)は、本学カリキュラム上では「実習」扱いとなるため、それにかかる実費(実習費用)は学生の個人負担となります。そのため、海外研修は2年次後期に実施されますが、2年次後期の大学の学費は通常どおり払っていただくとともに、それに加えて、海外研修費用(実習費用)の支払いが必要となります。なお、「海外研修経費」一覧表にある「大学負担」金額は、「本学徴収」金額に反映されている(そこまでに記載された本学への支払い費用全額から引かれている)ことに留意ください。そのため、2年次後期の学費は、その額に変更はなく、大学会計課から別途請求されることになります。なお、海外研修費用(実習費用)は概ね7月中旬頃に会計課からその請求書が保護者宛に送付されます。

* 海外研修費用が学費とは別に必要であることは、本学受験時の資料である「学生募集要項」及び、入学手続き時に配布される「入学のしおり」に明記されていますのでご参照ください。

1. 海外研修プログラムの内容について

海外研修プログラムには以下の3つのタイプがあります。

1)メインプログラム

海外研修のフラッグシップ(中心的)モデルです。研修先大学は英語圏5カ国(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド)に16大学(変更の可能性有)が用意されており、主に8月から9月にかけて渡航し、本学の2年次後期にあたる1学期間(約16週間)をホームステイしながら(一部寮のところもあります)研修先大学(英語集中課程に所属)で学びます。研修先大学のプログラム開始日から終了日迄の期間を「海外研修期間」と呼びます(通常8月中旬から12月中旬迄)。教育効果(英語学習、コミュニケーション能力、多文化理解等)という点では最も優れたプログラムであることから、特段の事情がない限り、2年生全員が本プログラムに参加します。

プログラム終了から次年度4月の3年次開始迄3ヶ月強ありますが、この期間はさらに英語あるいは異文化を勉強するいい機会でもあります。海外に出る機会には限られていますので、予算・安全等をよく検討した上で、可能であれば海外に継続して滞在し、この期間を有意義に過ごしてもらえかと思います。ただし、研修後の期間はあくまで個人の責任において過ごすことになりますので、くれぐれも無理することなく、健康・安全第一に計画を練ってください。研修後の過ごし方については、グローバル教育センターに相談してください。

2)ハイブリッドプログラム

やむを得ない理由により長期の海外研修ができない学生に対しては、学内での研修を2ヶ月、海外での研修を2ヶ月とした海外留学ショートプログラムもあります。学内研修は10月から始まり12月まで、そして、海外研修は翌年の1月から3月までの約2ヶ月間となります(研修先大学によって期間は多少異なります)。令和7年度現在、本プログラムの海外研修先大学(定員4人)は、カナダのビクトリア大学のみとなります。

* 研修先大学は変わる可能性があります。

3)アジアプログラム

アジアに興味がある学生(若干名)に対し、要件(成績、英語力等)を満たせば、本学交換留学提携校である韓国ヨンナム大学、あるいは、香港センテニアル大学において海外研修を行う機会を提供します。英語力の要件は、ヨンナム大学はTOEIC600点以上、センテニアル大学はTOEIC750点以上となります。本プログラムは、英語学習あるいは英語圏文化の理解を主な目的とはせず、韓国あるいは香港(中国)等、アジア圏への理解を深め、今後国際社会で活躍したいと考えている学生に対し、早い時期からグローバルマインドを形成する機会を提供するためのものです。そのため、研修先大学では、英語科目(2科目)の他、正規科目(アジア研究等)3科目以上の履修が求められます。

* 本プログラムは交換留学協定による派遣となるため、研修先大学での授業料は免除されます。

以下の項目は海外研修メインプログラムを念頭に記載されています。バイブリッドプログラムやアジアプログラムについては、必要に応じて個別相談を行います。

2. グローバル教育センターの業務内容について

- 海外研修先大学の説明・選定の相談、研修に係わる指導を行います(個別面談実施予定)。
- 学生の英語力、性格等も考慮し、どの英語教育プログラムが参加可能か、あるいは向いているかについて適切なアドバイスをします。
- 外国での生活費、気候、レクリエーション、ホームステイ、環境、英語プログラム等の情報を提供します。
- 学生ビザ、医療保険の取得、空港への出迎え、住居の確保、その他海外研修に必要な諸手続全般のお手伝いをします。
- 経費効率のよい旅行計画を立てるためのアドバイスをします。
- 海外研修期間前後の活動(小旅行等)について相談に乗ります。
- 出発前の事前指導セミナーにおいて、課題の説明・指導はもちろん、海外における安全と生活、異文化理解、ホームステイにおける留意点等、多様な指導を行います。
- 海外研修期間中、適宜学生及び研修先大学担当者と連絡をとり、状況の把握を行う一方、必要に応じて適切な対応・指導を行います。
- 海外研修期間中の学業成績を確認し、その結果を学部長等に報告します。

3. 海外研修先大学と安全の確保

(1) 研修先大学の選考基準について

主に以下の5つの基準をもとに海外研修先大学を選択しています。

- 1) 大学及び大学所在地域の安全性
 - 2) 研修先大学及び英語集中プログラムの質
 - 3) 正規留学生に求められる英語力(TOEIC やTOEFL IBT 等で判断)
 - 4) 英語プログラムの期間及び開始時期と本学の学年暦との整合性。
- また、他の基準としては以下のものがあります(主要なもののみ列記)。
- 国際空港への交通の利便性
 - 宿泊施設(ホームステイ先等)の安定的確保
 - 大学所在地の魅力(含、観光地等へのアクセス)
 - 他国からの留学生と接する機会の有無

(2) サイトメンター(現地指導教員)について

各研修先大学には「サイトメンター」と呼ばれる本学学生のための担当教員がいます。サイトメンターには海外研修の内容や指導方法に関するガイドラインを送っていますので、彼らは本学のプログラムや学生のニーズをよく理解した上で学生の指導を行います。学生はサイトメンターと定期的に会い(基本、週に一回)、ポートフォリオ(後述)の作成指導を受けます。必要に応じて日常の様々なアドバイスも受けます。

(3) 研修中の危機管理及び安全の確保について

予期せぬことがいつ起こるかわからない現代、安全については私達の誰もが考えなければならないことです。完璧な安全はどこにも存在しません。上記 1)にあるように、私達が海外研修先大学を考える際にまず考慮したことは、大学が比較的 안전한場所にあるかということ、そして次に、大学が学生の安全管理に十分配慮し、それなりの対策をとっているかということです。本学が研修先を選択する際には、その点に留意した上で研修先の選択を行っています。また、出発準備の一環として、学生に対し安全についての指導を行います。海外研修先大学においても、到着するとすぐ、まず危機管理・安全のためのオリエンテーションが行われ、緊急連絡先等重要事項の周知徹底がなされます。

どんなに準備をしようとも、あるいは指導がなされようとも、結局は学生自身が常に十分な注意を払って行動することが何よりも重要です。無責任な行動は絶対にしないこと。危険があると注意されているところには絶対に行かないこと。夜は基本出歩かないこと。そして、もめ事になるようなことには絶

対に加担しないこと。これらが最善の安全策といえるでしょう。なお、外務省では、海外に渡航する日本人の安心と安全のため、2種類の渡航登録サービスを提供しています。一つは、外務省海外旅行登録、通称「たびレジ」、もう一つは、在留届電子届出システム「ORRnet」（以下のロゴ参照）というものです。登録していれば、必要に応じて在外公館から緊急一斉連絡メール等が届きます。海外での思わぬトラブルを未然に防ぐために、必ず登録してください。なお、旅券法第16条により、外国に住所または居所を定めて3ヶ月以上滞在する日本人は、「在留届け」を提出することが義務づけられています。この届け出は現地到着後に行うものですので、到着後忘れずにネットで届け出をしてください。外務省のサイトに入り、上にあるメニューの中から「海外渡航・滞在」をクリックし、次に出てくる画面上にある「届出・所在調査」をクリックすると、そこに「在留届」「たびレジ」等のリンクがあります。「在留届」をクリックすると、そこに以下の「在留届電子届出システム(ORRnet)」のバナーがあります。



そして、そこをクリックすると、以下のサイトに行きます。「たびレジ」は3ヶ月未満の渡航を予定している人が対象であり、3ヶ月以上の海外滞在を予定している本学の学生は「在留届を提出する」をクリックして次の画面に入り、在留届提出のための情報を確認の上入力し、在留届をオンラインで提出してください。

外務省

海外へ渡航される皆様へ

たびレジ

外務省 海外安全情報配信サービス

たびレジに登録する

たびレジに登録するとこんなに安心！

安心1

出発前から旅先の安全情報を入手！

「〇〇地区では外国人旅行者を狙ったひったくりが多発しています！」

安心2

旅行中も最新情報を受信！

「〇〇地区で外出禁止令が発出されました！」

安心3

現地で事件・事故に巻き込まれても素早く支援！

「被害に遭っていませんか？」

安心4

日本にいても世界の最新情報を入手！

- △△地区で地震が発生！
- ××国で感染症が流行！

外務省

オンライン在留届

ORR(Overseas Residential Registration)net

外務省 在留届電子届出システム

在留届を提出する

在留届の提出は、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する方が対象です。

※ 旅券法第16条により、その地域を管轄する日本大使館または総領事館に速やかに在留届を提出することが義務付けられています。

海外転勤になった

海外留学する

海外に永住・長期滞在する

外務省

MOFA 外務省

海外安全ホームページ

Copyright © Ministry of Foreign Affairs of Japan

外務省 〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1 電話(代表) 03-3580-3311 法人番号 9000012040001

「在留届」が提出されていないと、日本の在外公館は皆さんが外国のどこに居住しているのか、また、個人情報かわからないため、例えば、大災害や大きな事件があった場合、あるいは皆さんが事故に巻き込まれた場合、安否の確認、緊急連絡、救援活動、留守宅やご家族等への連絡を迅速に行うことができません。「在留届」が提出されていれば、在外公館はそのような事態に迅速に、かつ適切に対応してくれます。また、危機管理・安全に関する情報も必要に応じて個人のメールに送信してくれます。もちろん、本学では、グローバル教育センター、研修先大学(本学学生担当者教職員)、ホストファミリー及びその関係者、本学指定留学保険会社である東京海上日動火災(株)及び東京海上日動リスクコンサルティング(株)等が連携して危機管理情報を共有し、必要に応じて大学の危機管理体制のなか、必要なあらゆる対応を適切に取っていきますので、どうか安心してください。

4. 海外研修履修要件等

(1) 履修コース概要および単位(本学のカリキュラム上の「海外研修科目」)について

1) SAB201 英語(ESL)(6単位)

英語の口語表現、読解、作文、聴き取り等の集中授業。英語力に応じてクラス分けされます。

2) SAB202 自由研究(2単位)

自らの研究テーマを設定し、ライブラリーリサーチ(図書館での資料検索および文献調べ)やフィールドワーク(研究対象の観察、地域住民・学生への聞き取り調査やアンケート調査等)を通して独自の研究論文・レポートを作成します。

3) SAB203 地域研究(6単位)

研修先地域あるいは国の理解を深める目的に合致する科目(選択科目)の受講、自身の体験(ボランティア活動、旅行等)や観察を通して得た滞在国・地域に対する新たな知見をレポートやエッセイにまとめます。

海外研修総単位数: 14単位

(2) TOEIC の点数について

海外研修先大学の選定にあたっては TOEIC テストの得点が重要な指標となるため、学生は、基本、1 年次後期(12 月、1 月)に行われる TOEIC テストを受験することが求められます。また、海外研修前の 7 月には、全員「海外研修前 TOEIC テスト」を受けてもらいます。そして、海外研修後、翌年の4月中旬に「海外研修後 TOEIC テスト」の受験が義務づけられます。後者は英語力における海外研修の成果を測るためのものです(TOEIC テストの費用は本学が負担します)。なお、3 年次進級要件の一つとして、TOEIC500 点(または TOEFL IBT45 点)が設定されていますので、海外研修前(あるいは海外研修中)にその点数を取得していない学生については、翌年の 3 月に TOEIC テスト受験の機会を提供します。

(注意)

1. 学生は、原則として海外研修先大学の集中英語プログラム(呼称は大学により異なる)に 所属することになります。
2. ただし、TOEFL IBT や IELTS の成績が一定以上ある(研修先によって異なる)学生は、各大学のプログラムにおける科目の選択の幅が広がります(正規授業の聴講が可能になる場合があります。)。
* 正規授業を受けたい学生は、必ず TOEFL IBT、もしくは、IELTS を受験しておいてください。
3. 研修先大学は、各プログラムの参加要件及び西村副学長の指導・許可により最終決定されます。

(3) ポートフォリオ(海外研修の課題)について

海外研修中に、学生は「ポートフォリオ」と呼ばれる課題を完成しなければなりません。これは「英語」「自由研究」「地域研究」の枠組みの中で行った学修(大学の授業等を含む)及び諸活動(サービス・ラーニング/インターンシップ、ボランティア活動)の集大成となります。15,000 ワード(40 ページ相当)以上の自作の作文、エッセイや論文を作成し、それらをまとめて「ポートフォリオ」として提出します。写真や観光パンフレットなどもこの中に含めることはできますが、学生は自分で書いた文章のみで構成された「ポートフォリオ」を作成することが求められます。そして、このポートフォリオは、海外研修終了時(海外研修学期終了日)までに作成し、サイトメンターに提出、承認を受ける必要があります。このようにして完成したポートフォリオは、学生自身により学部長あるいは指定された本学教員へ提出することになります(メールで送付)。最終的に

は、国際教養学部長が海外研修単位の認定を行います(詳しくは p24～26 参照)。提出の最終締切りは、2027 年 1 月 31 日午後 11 時 59 分 59 秒(日本時間)となります。

* 重要: ポートフォリオの完成にはサイトメンターのチェック及び承認が必要となるため、ポートフォリオの現地提出期限は、各研修先大学のサイトメンターが決定します。そのため、ポートフォリオは、現地の秋学期(海外研修学期)が終了する前に完成しなければなりません。

(4) 海外研修科目の成績について

海外研修科目の成績は、合格(P)/不合格(F)の2つになります。以下の2つの基準で判定します。

1. 研修先で登録したすべての科目をパスすること。成績はプログラム終了時に本学に送られてきます(全てのプログラムで、科目をパスするためには最低出席回数が規定されています)。
2. 研修先のサイトメンターが定めた期限までにポートフォリオを完成させ、それを 2027 年 1 月 31 日午後 11 時 59 分 59 秒(日本時間)までに指定された本学教員へ提出すること。

5. 海外研修実施日程等

(1) 海外研修へ出発までのスケジュール等について

〈1年次後期〉

- 第1回海外研修説明会(2025 年 12 月 7 日(日))
- 個別面談・指導(後日連絡)
* 研修先大学の選択に係わる相談、学習指導、及び携帯番号、住所、保護者等情報の登録
- (学生)研修先大学選択のための資料・情報チェック(ウェブ及びグローバル教育センターを利用
ー12 月初旬から適宜行うこと)

〈2年次前期〉

- 第2回海外研修説明会(2026 年 4 月 5 日(日))
- パスポート(※)、証明書用写真1枚(4.5 x3.5 cm)の提出(締切り:4 月 5 日(日))
※パスポートは帰国予定日から 6 ヶ月以上の有効期限があるもの。
- 海外研修先大学選定会(4 月 15 日(水)(予定): 当日 2 年生は全員 2-307 教室にて研修先を選択します。) * 正確な日程等については第 2 回海外研修説明会時に連絡します。
- 海外研修先大学変更期間(4 月 16 日(木)～21 日(火)12:00)
- 海外研修先大学の最終決定(4 月 21 日(火)13:00)

(しなければならない手続き等)

- 海外研修先大学プログラム及びホームステイの申込み、学生ビザ申請(研修先毎に手続きの日程を連絡します。)
- 緊急時対応者の決定(各学生は、研修先での緊急事態に備えて、パスポートを所持し研修先大学地域まで行くことが可能な家族一人を相談の上決めておくこと。)
- キャッシュパスポート(海外 ATM で現金引出しができるプリペイドカード)及び海外留学保険の申込み(全体会を開催)
- 航空券の予約・購入(旅行計画、予約、購入は各学生が自己の責任において行うこと。)
* HIS が情報を提供。渡航スケジュールはグローバル教育センター(田畑)に必ず報告のこと。
- 海外用 SIM(シム)カードの購入
- クレジットカードの申込(任意)
- 予防接種証明書の取得(一部のアメリカ大学へ行く学生のみ)

(その他準備関係)

- TOEFL IBT(Internet-Based TOEFL)あるいは、IELTS テストの受験
* TOEIC で高得点を取っている学生は、有料とはなりますが、できれば TOEFL IBT、あるいは IELTS の受験を勧めます(研修先大学における正規授業受講許可が事前に受けられるため)
- 海外研修プログラム終了後、3ヶ月強の旅行・学習計画の立案
* 経済的かつ時間的に余裕があるようであれば、研修終了後継続して語学研修を続けることを勧めます。ただし、「海外研修」期間外については、本学は一切責任を負いませんので、あくまで慎重にプランを練って下さい(計画がある場合は相談してください)。

- 海外研修事前指導セミナーへの参加(ポートフォリオ作成に関する指導の他、異文化理解、安全対策、ホームステイ留意事項、入国・出国手続き等に関する説明・指導等が行われます。)
- * 出席しない、あるいは出席率が著しく悪い場合は、研修先大学への申込を破棄します。
- 出発準備の確認(早期到着時の宿泊、空港出迎え手配等の確認を含む)
- 希望による三者面談の実施(事前予約要)

(2) 海外研修への出発について

学生は、多くの場合、本学の前期終了後の8月中旬から下旬にかけて、海外研修へ出発します。研修先によって授業開始時期は異なりますが、一般的にアメリカの大学は8月中旬、オーストラリア、イギリスの大学は8月下旬から9月初めにかけて、カナダ及びニュージーランドの大学は8月初めから下旬と大学によって大きく異なります。カナダのビクトリア大学は8月第2週初めになる予定です。

研修期間はどの研修先においても15～17週間ですが、1つの継続したプログラムである場合と、2つのプログラム、あるいはセクションが短い休みを挟んで組まれる場合もあります。

6. 海外研修に係わる準備等

(1) 海外研修先大学の選択について

学生は本学担当者と相談・協議の上、研修先大学を決定します。グローバル教育センターには、一部の研修先大学のカタログ類が置いてありますが、今は各大学のホームページの方が紙媒体よりも充実しているので、興味のある大学のサイトをしっかり確認して情報を得てください。また、大学の紹介をしている動画が YouTube に多くありますので、そちらも参考にしてください。海外研修先大学を決めるにあたっては、自分なりのチェックリストを作成し、内容を十分確認後、優先順位をつける等工夫しつつ、効率よく決定作業を行ってください。

(チェックリスト項目例)

- 研修地(国、州、地域、市等)
- 英語の種類(イギリス英語、アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語)
- 気候・天候の違い
- 研修地の規模(大都会、小都市等)
- 生活および自然環境(自然、史跡、著名な文化施設等の有無)
- スポーツ施設、美術館、コンサート、ショッピングモール(生活関連施設)等の充実度
- 治安(町の規模が小さい程安全度が高いと一般的に考えられています。)
- 学費、宿泊費、生活費、旅行費用、その他必要と考えられる諸費用の総額
- 大学キャンパスの規模
- 英語プログラムの規模(学生数)
- TOEFL IBT や IELTS の点数(一部の大学のみ)
- プログラムの長さや週当たりの授業時間(プログラムによって授業時間数が異なります。)
- プログラムの開始・終了時期
- 自由研究の課題(興味あるテーマとの関連で研修先を考慮)
- 旅行、自主的学習、ボランティア活動等の機会の有無

研修先を決定するにあたっては、家族や友人とじっくり話し合うことはもちろん、海外研修から帰国した先輩の体験談を聞くことも強く勧めます(自分が行きたいと思っている大学に行った学生とコンタクトを取りたい場合は、グローバル教育センター(田畑)へ相談してください)。決定前に各大学の特色を十分に吟味・理解しておくことが大切です。どの大学にもそれぞれの個性があります。学生にとってこの決定は困難なものです。このことは自分の人生に責任を持つことへの第一歩とも言えますので、どうか悔いのない選択をしてください。

(2) 海外研修大学の選定・決定について

本学の海外研修は、少人数派遣を前提としているため、派遣人数は、各研修先大学につき 原則 10 人までとなります。

前述の通り、研修先大学選定期間は、4 月 6 日(月)から 15 日(水)までの 10 日間であり、その後の変更期間が 16 日(木)から 21 日(火)正午(12 時)までとなります。学生は 15 日(水)(予定)の指定時刻に 2 号館 307 教室に集合し、海外研修先大学選定会に参加します。選定会では、学生の名前が書かれたクジが無作為に引かれ、読み上げられます。そして、名前が呼ばれた順に希望する研修大学の登録を行います。原則 1 大学につき 10 人までという人数制限がありますので、すでに制限人数に達している大学にはそれ以上名前を書き入れることはできません。制限に達した大学についてはキャンセル待ちリスト(ウェイティングリスト)を作りますので、できればその大学に行きたいと考えている学生は、まずはウェイティングリストに名前を記入し、その後、まだ席のある大学へ登録した上で希望の大学のキャンセルを待つことになります。希望大学にキャンセルが出て人数に空きが出た場合は、その名簿リストに登録できることになります。

なお、パスポート及び ID 写真等の提出物を 4 月 5 日(日)(第2回海外研修説明会日)までに提出しなかった学生については、研修先選定会において通常の選択権がなくなります。これらの学生については、提出期限を守った他の学生全員が研修先を選んだ後にくじを引き、登録が可能となります。

前述の通り、4 月 16 日(木)から 21 日(火)の正午(12 時)まで、研修先大学の変更を受け付けます(変更する大学が定員をオーバーしていない場合に限りです)。4 月 21 日(火)午後 1 時に研修先大学が最終決定されます。

(3) 海外研修に係わる諸手続とそのスケジュールについて

以下を海外研修前の 4 月～7 月に実施あるいは準備してもらいます。

a. レントゲン撮影について

4 月(上旬)に本学で行うレントゲン撮影検査を受けること。研修先によっては検査結果の提出を求められることがあります(2025 年度実績については、次頁、g. の表を参照)。学生は自身の健康管理のため、また結果の提出を要求されることを想定して、必ず検査を受けてください。アメリカでの研修を希望している学生については、結核にかかっていないことを証明する書類を作成し提出する必要がありますので、そのためにレントゲン撮影の診断書が必要となります。必ずレントゲン検査を受けてください。

b. パスポートの提出について

パスポートは各自責任を持って自分で取得し、2026 年 4 月 5 日(日)までにグローバル教育センター(田畑)に必ず提出して下さい。すでにパスポートを持っている場合は、現地での滞在に十分な残存有効期限があるかどうかを必ず確認して下さい。国によっては学生 VISA 申請時や入国時に残存有効期限の制約がある場合がありますので、十分な注意が必要です。

例 1: ニュージーランド学生ビザ申請には、滞在期間プラス 3 ヶ月以上の残存有効期限のあるパスポートが必要。

例 2: 台北を経由する場合、パスポートに 6 ヶ月以上の残存有効期限がなければ入国できない。

* 家族で緊急時対応者となっている方も、海外研修終了時まで有効なパスポートを持っている必要があります。

c. TOEFL(IBT)及び IELTS テストスコアについて

TOEIC の点数が高い学生(800 点以上)で英語プログラム以外の授業(研修先大学の正規科目)の履修に興味がある学生は、TOEFL IBT、あるいは、IELTS の受験をしておいてください。これは研修先大学の選定に関わりますので、正規科目の履修に興味がある場合は、必ず相談して下さい。ちなみに、正規科目の履修条件は、概ね TOEFL IBT で 75 点、IELTS で総合 6.5 以上(但し、全領域で 6.0 以上)となります。研修先大学によってその点数は多少変わりますが、上記レベルを達成すれば正規科目を受けられる可能性は高くなります。目標を持って勉強していきましょう。

d. 写真の提出について

4.5cm × 3.5cm の写真を 1 枚用意し、2026 年 4 月 5 日(日)までにグローバル教育センター(田畑)に提出してください。写真の裏には名前(アルファベットでフルネーム)を忘れずに記入して下さい(アメリカのビザを取得するためには、別途 5cm x 5cm 背景白の写真が1枚、また、デジタル写真も必要となりますが、その指示は後日行います)。

e. 研修先の決定について

2026 年 4 月 21 日(火)午後 1 時をもって研修先大学を最終決定します。その後の変更はできません。

f. 海外研修先大学・ホストファミリー会社への申込みについて

研修先大学決定後、早い時期に申込みを行います。申込みは、大学によってウェブ上であったり、一部紙媒体であったり(後にデータに変換)とまちまちです。その時期になると、適宜ミーティングを開いたり、メールで情報を確認したりして申込書類の作成にあたります。ミーティング等の連絡は学内電子メールを通して行います。研修先大学がアメリカの場合には、研修先大学に申し込む際に、預金残高証明書(英語表記)1通が必要となります(適切な時期に指示を出しますので、指示を待った上で、その後迅速に対応してください)。

g. 結核と予防接種の証明について

アメリカの場合、3 カ所の研修先大学で複数の予防接種を受けた事実やレントゲン撮影(結核検診)結果を証明する書類が要求されます。その様式は本学で作っていますので、それらの大学に行くことが決定した学生は、渡航前に予防接種を受けた証明(母子手帳による)を持って、本学指定の病院(しおもりクリニック(池田台加納バイパス沿い))に行き、当該様式に医師から署名をもらう必要があります。証明書(様式)作成に関しては、詳細な指示を行います。その証明(母子手帳にあるべき予防接種の記録)がない場合には、日本を出発する前か、または研修先大学において、それらの予防接種を受ける必要があります。証明が必要な大学は以下の通りです。

研修先大学名	結核(レントゲン)	MMR(はしか、おたふく風邪、風疹の3種混合) (2回接種要。麻疹と風疹に抗体がある血液検査の証明でも可。)
カリフォルニア大学 サンマルコス校	○	○
アリゾナ州立大学	○	○
ユタ州立大学	○	○

h. 学生ビザの申請について

各研修先大学への手続きが終わると、研修先大学から学生ビザ申請に必要な書類が本学に送られてきます。その書類を受け取り次第、ビザミーティングを招集し、学生ビザ取得に必要な書類を作成します。学生ビザ申請に伴う手続は国によって異なり、また随時改訂が加えられることが予想されますので、具体的な情報は、2026 年 4 月 22 日(水)以降に該当する学生に対して適宜連絡します。

なお、渡航にあたっては、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドについては基本「学生ビザ」を取得し、カナダ、イギリスについては6ヶ月以内ならビザ無しでの渡航となりますが、もし、海外研修後に数ヶ月間アルバイト体験をして長期滞在をしたいと考えている場合は、ワーキングホリディビザ(有効期限1年)を取得していく必要があります。ワーキングホリディビザが取得可能な国は、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドとなります。興味がある学生は、早い段階で相談してください。

① 学生ビザ申請の有無と入国に必要な書類や手続等(2025 年度)について

<オーストラリア> *ビザが必要

- 入学許可(Confirmation of Enrollment)番号
- インターネット上での学生ビザ申請
*ビザはパスポートに貼付されるのではなく、代わりにビザ確認電子メールが届く。
- 学生あるいは保護者のクレジットカード情報(種類、名前、番号、有効期限、セキュリティコード)—AU \$ 2,000(約 202,200 円)のビザ申請料をインターネットで支払うために必要となる。
- 出席証明書(以前オーストラリアに留学経験のある学生のみ。出席率 90%以上あることが必要)

<イギリス> *6ヶ月以内の滞在の場合には学生ビザ必要なし。

- 入国手続きを行う空港(初めて着陸する空港)で入国許可書が発行される。
- 6ヶ月以上の滞在を希望する場合は、早めにグローバル教育センターに相談すること。

<アメリカ> *ビザが必要

ステップ1: 申請書の準備

- 入学許可書(I-20) * 研修先大学が発行、学生の署名がなされたもの。
 - 学生ビザ申請書(DS-160、ウェブ上で作成)
 - パスポート(オリジナル、滞在予定期間より6ヶ月残存有効期限が必要)
 - 写真1枚(5cm×5cm、背景は白に限る) * 作成場所は宮崎カメラ(赤江店)を推奨
 - デジタルフォト(ウェブ上でビザ申請を行う時に必要) * 宮崎カメラ(赤江店)を推奨
 - 学生自身あるいは保護者のクレジットカード情報(種類、名前、番号、有効期限、セキュリティコード)—SEVIS(米国学生データベース)登録料 350 ドル(約 55,000 円)、ビザ申請料 185 ドル(約 29,000 円)をインターネット上で支払うため。
 - 預金残高証明書原本1通
 - 英文で作成されたもの(米ドルに換算して記載)
 - 滞在期間中の滞在費として十分な金額(最低 15,000 ドル * 時期が来たら再度連絡します。)
- *預金残高証明書の有効期限は1ヶ月のため、必要な時から換算して提出すべき時期を知らせますので、それまでは作成しないようにしてください。

ステップ2: 面接を受ける

- 通常は個人での予約・面談となるが、本学の学生の場合は、神戸・大阪領事館でグループ予約・面談となる。日程等詳細は時期が来てから決定するが、7月上旬から中旬の予定である。面接に必要な書類(パスポートを含む)はグローバル教育センターから直接領事館へ送付するため、学生は、面接当日は何も持参する必要はない。
- 事情があり他学生と別日程で面接を受ける場合は、個人で希望するアメリカ大使館、又は領事館での面接予約をインターネット上で行わなければならない。
- ビザは面接後、問題がなければ1週間後くらいに発行され、パスポートに添付され、本学に送付される。届き次第学生に連絡がいく。

<カナダ> *ビザは必要ないが、電子渡航認証(eTA)の取得(\$7)が必要。

- 入国手続きを行う空港(初めて着陸する空港)で入国許可書が発行される

- 6ヶ月以上の滞在はビザが必要であるため、早めに相談すること。

<ニュージーランド> *ビザが必要

- 学生ビザ申請はインターネット上で実施
- 研修先大学からの入学許可証のコピー
- 研修費用支払い証明書(本学が全額を立て替えて支払い、支払い証明書を受領)
- 宿泊及び宿泊費用支払い証明書 (本学が全額を立て替えて支払い、支払い証明書を受領)
- パスポート(オリジナル。滞在予定期間よりも3ヶ月余分に残存有効期限が必要)
- 預金残高証明書 原本1通
 - 学生本人の口座であること
 - 預金残高は日本円で100万円以上あること(*金額及び提出時期は5月頃連絡する。)
 - 発行後30日以内のものであること
 - 英文で記載され、ニュージーランドドルで換算された金額が記載されていること

② 入国時に必要な書類

7月に行われる海外研修事前指導セミナーで詳しい説明を行います、以下がその書類等です。

<オーストラリア>

- パスポート(ビザは入国手続時にパスポートに貼付される)
- ビザ確認電子メールを印刷したもの
- 研修先大学からの入学許可証
- 復路航空券

<イギリス>

- パスポート
- 研修先大学からの入学許可証
- 預金残高証明書(必須ではない)
- 復路航空券

(注意)6ヶ月以上滞在する場合にはビザが必要

<アメリカ>

- パスポート(ビザはパスポートに印刷されている)
- 研修先大学からの入学許可書(I-20)
- 復路航空券

<カナダ>

- パスポート(eTA 登録済であること)
- 研修先大学からの入学許可証
- 預金残高証明書(必須ではない)
- 復路航空券

(注意)6ヶ月以上滞在する場合にはビザ(Study Permit)が必要

<ニュージーランド>

- パスポート(ビザは入国時に確認される)
- 研修先大学からの入学許可証
- 復路航空券

③ 預金残高証明書について

研修中の経費負担能力を証明するためのもので、プログラムへの参加申請、学生 VISA 申請時に領事館に提出(アメリカ、ニュージーランド)、及び入国時(カナダ、イギリス)に提示する(必須ではない)場合があります。研修費、滞在期間中の生活費に十分な額が必要です。本学の指示にしたがって、適切な時期に、適切な金額の証明書を発行してもらってください。銀行、信用金庫、郵便局のいずれでも、通常、即日発行されます(有料。但し、入金と同時に発行されません)。

預金残高証明書は、発行後30日間のみ有効です。あまり早く取得しておく必要のない有効期限切れとなり、再度取りに行くことになりますので、本学の指示に従って下さい。

なお、証明書は原本でなければなりません。英文の証明書が必要ですので、金融機関には、くれぐれも英語で作成してくれるよう依頼してください。

印字される金額は日本円でも構いませんが、その場合は、金融機関担当者に、当日のレートで現地通貨相当額を併記してくれるよう依頼してください。

できれば本人名義のものがいいですが、本人名義でなくても、家族の方のもので名字が一緒ならその方のもので構いません。しかし、その場合は、名義者本人が次のような内容を預金残高証明書の余白に記入しなければなりません。以下はその一例です。

例: These Funds will be used in support of Hanako Kokusai (学生名)
Signed: Taro Kokusai (保護者名)
Date: June 15, 2026 (日付)

但し、ニュージーランドは本人名義の預金残高証明書でなければいけません。

預金残高証明書に必要な金額は国によって、また滞在期間によっても変わってきますが、2025 年度の実績は次の通りです。

<アメリカ>

研修先プログラム申込時(5月)に1通、また、学生ビザ申請時(7月)に1通の、計2通が必要となります。同時に2通は取らないでください。基本、15,000ドル以上が必要です。

<イギリス>

滞在の長さにもよりますが、約 4,500 ポンドあれば十分です。ただし、これは絶対に必要なものではありません。入国時に入国審査官によっては十分な滞在費用を持っているかを聞く場合があり、その際に現金、クレジットカード等を提示してそれを証明でき、相手が納得すれば問題ありません。しかし、念のために、そのような場面に遭遇することを想定して預金残高証明書を持っていくというのはいい考えです。ただし、その際に提示する預金残高証明書は、イギリス入国前 30 日以内に発行されたものでなければならぬので、十分注意してください。

<カナダ>

イギリスと同様、特に必要はありませんが、念のために持って行くのであれば、一月あたり 3,000 カナダドル、4ヶ月であれば、合計 12,000 カナダドル以上のものを持っていけばいいでしょう。

<ニュージーランド>

最低 12,000 ニュージーランドドル(日本円で約 90 万円)。学生ビザ申請時に必要です。

*5月以降に2026年度に必要な金額を確認し、再度連絡します。

☆全研修先共通の重要事項:

1. 預金残高証明書は英文のもの。
2. 日本円と現地通貨両方での金額の記載が必要。現地通貨での換算金額は、基本、金融機関で記載してもらうが、できない場合は自分で記入する(ニュージーランドは除く)。
3. 証明書が自分名義の口座でない場合は、上記の要領での記載(例を参照)が必要(*ニュージーランドは必ず学生自身の口座が必要)。

7. 海外研修期間中の健康管理について

(1) 医療保険

海外研修期間中、全学生に本学指定の海外留学保険への加入が義務づけられます。これは全学生の保険を一本化することによって、万が一事故等が発生した場合に迅速、適切な対応を行うためです。海外研修が終了した後も引き続き海外に滞在する場合は、その期間も含めて海外滞在全期間について保険をかけて下さい。

a. 宮崎国際大学指定海外留学保険(学研災付帯海外留学保険)

海外留学保険については、様々な観点から慎重に検討した結果、その経験の豊富さ(多くの大学の海外留学プログラムを担当)、世界的ネットワーク、24時間日本語電話及びLINEによるサポート、現金不要で治療を受けられる「キャッシュレス・メディカル・サービス」等、その他多くのサービスが学生の海外滞在中の安全確保のためには必須と判断し、また本学との連携の効率性も考慮した結果、東京海上日動火災保険株式会社の海外留学保険を本学の指定保険としています。また、同保険会社の海外留学保険が学研災付帯海外留学保険となったため、本学が実施する留学プログラムについては、通常の保険料が大

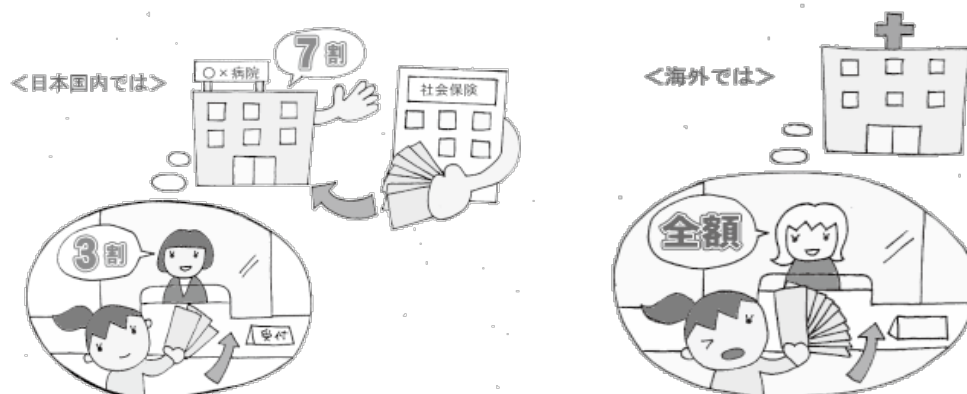
きく割引されます。2025 年度の割引実績は 45.6%でした。保険対象項目としては、傷害、疾病、賠償責任、救援者費用、携行品など、海外留学保険としては必須の項目を全てカバーしています。2025 年度の保険料金は、次の通りでした。

	学研災付帯 海外留学保険
傷害死亡	1, 000万円
傷害後遺障害	1, 000万円
治療・救援者費用 *	無制限
疾病死亡	1, 000万円
歯科治療費用	30万円
留学生賠償責任	1億円
携行品損害	10万円
緊急一時帰国	50万円
航空機寄託手荷物	3万円
航空機遅延費用	付帯あり
5ヶ月まで	48, 990円
6ヶ月まで	59, 510円
7ヶ月まで	70, 200円
8ヶ月まで	80, 890円
9ヶ月まで	91, 850円

*「治療・救援者費用」における治療・救援者費用保険金額無制限とは、1回のケガ、病気、事故の支払限度額を無制限とするものであり、治療・救援費用を一生涯補償するものではありません。

* 場合によっては治療時にその費用を直接支払わなければならない場合があります。その場合、後日治療明細(病院が発行した診断書)と領収書を提出して払い戻しを受けることになります(このような場合に備えて、VISA や Master カードの携帯を勧めます。キャッシュパスポート等も Master カード機能が付いています)。盗難事故による損害を請求する場合には、盗難事件を警察署に届け て、警察署発行の盗難証明書を持ち帰る必要があります。なお、この保険には自動車運転者賠償は含まれていません。

Q.なぜ留学保険への加入が必要なのか？



イラストからわかるように、日本では治療費の3割を自己負担すればいいですが、日本の保険の適用がない海外では全額が自己負担となります。しかも、その費用は、ケガや病気の程度によりますが、日本に比べて極めて高額になります。例えば…

Case 1: 高速道路で対向車と衝突。大腿骨骨折、上腕骨骨折、鎖骨骨折など受傷しカナダで約3か月間入院の後帰国。治療費: 約 750 万円

Case 2: アクティビティー中に木から落ちて、背骨を骨折。治療費: 約 1200 万円

Case 3: ローラースケートで転倒し、硬膜外出血。治療費: 約 870 万円

Case 4: スキーに行き、事故で大腿骨を骨折。治療費: 約 400 万円

Case 5: カップラーメンを膝にこぼして火傷を負ったため病院へ。治療費: 約 35000 円。

* 円安の影響で、現在はさらに高額になっています。

また、保険の内容によっては治療を断られることもあります。



海外は損害賠償については極めて厳しいので、他人の物を誤って壊してしまった時に頼りになる「損害賠償保険」も重要になります。また、携行品の紛失、破損についてもカバーされている方が安心です。

以上のような理由から、海外の大学での長期に渡る研修には十分な内容を持った保険(海外留学保険)に加入することが義務づけられます。ほとんどの研修先大学では保険証書の提示が求められます。なお、保険加入期間は長めに設定しておくこと。使わなかった期間は、1ヶ月単位で返金されます。

b. オーストラリアへ行く学生の保険

オーストラリア政府は全留学生に対して、海外学生健康保険(OSHC)への加入を義務付けています(2025年度は、滞在期間によって異なりますが、ウォロンゴン大学では、4ヶ月の場合は356ドルでした)。しかし、この保険は、支払いに関して限度額があるとともに、ほぼ医療費のみの保障となっており、また、旅行中の事故等については保障がありませんので、十分な保障内容とは言えません。そのため、本学の海外研修プログラム参加にあたっては、この保険と本学指定の保険の両方に加入してもらいます。

c. 研修先大学に独自の保険がある場合

大学によっては独自の医療保険への加入を義務付けている場合があります(2025年度実績では、アリゾナ州立大学(アメリカ)、ビクトリア大学、トンプソンリバース大学及びサイモンフレイザー大学(カナダ)、オタゴ大学及びワイカト大学(ニュージーランド))。これらの保険も、出国してから現地に入るまで、現地での旅行中、現地を出発し日本に帰国するまでの期間等はカバーされず、またその内容(医療費等に限度額あり)も不十分であることが多く、学生には研修先大学独自の保険と本学指定の保険の両方に加入してもらいます。

(2) 研修先大学の医療サービス

海外研修先大学には、風邪等軽い病気に対する薬等は常備してあります。そしてほとんどの大学には診療所(ヘルスサービスセンター)があり、医療スタッフがいます。研修先大学到着時に行われるオリエンテーションでこれらの設備・施設の利用法についての説明があります。また、医療緊急時の連絡先および電話番号、そしてその時どのような行動を取るべきか等についても情報が与えられます。

(3) 現在健康に問題がある場合(持病等)の対応

現在健康に問題のある学生、又は特別の治療・医療が必要な学生は、海外研修出発前にかかりつけの医者を受診し、必要なことは全て尋ね、健康の維持・管理に努めて下さい。また、海外へ出る際は必ず過去の治療・処方・病歴等を英訳し、それを常に携帯するようにして下さい。もし健康状態の問題があれば、研修先を選択する前に知らせてください。健康上の問題が深刻で、緊急医療等が必要となる可能性

が高い場合は「学内研修」になると理解しておいてください。また、病気の内容・症状、服用しなければならない薬によっては渡航できないこともあります。なお、持病に係わる症状で、海外で治療を受けた場合は、海外留学保険の適応外となり自費での支払いが必要となります。

8. 旅行計画の作成について

(1) 航空券の購入について

旅行の手配は学生が各自の責任で行うこととなりますので、どの旅行代理店を使って航空券を手配しても構いませんが、本学は、HIS と連携して格安航空券の手配をお手伝いします。HIS を使う場合は、旅程表は本学へも送られてくるためその内容を確認できますが、他の旅行代理店を使う場合は、必ず航空券の予約が出来たら英語での旅程表を作ってもらようよう代理店に依頼し、そのコピーをグローバル教育センター(田畑)に提出して下さい(HIS 利用の場合はその必要はありません)。これは各学生が研修プログラム参加のために適切な日時に出発、そして到着するかを確認するとともに、現地空港での出迎えをアレンジするために必要となります。

安全対策として、同じ研修先大学へ行く学生は、出来る限り一緒に渡航計画を立て、一緒に渡航する努力をしてください。多少の妥協をしてでも一緒に行く方が、事故の防止、順調な海外研修のすべり出しという点からも大きなメリットがあります。ただし、事情により一人で渡航しても、もちろん問題はありません。

[滞在可能な期間について]

旅行日程を作成する際には、必ず学生ビザの有効期限も考慮して計画を立ててください。国によってはプログラム終了と同時に学生ビザが無効となり、滞在期間の延長には現地入国管理局での手続きが必要となる場合があります(2025 年は下記の通りでした)。

<オーストラリア>

プログラム終了後、1ヶ月間滞在可。延長は最寄りの入国管理局で学生ビザが切れる前の手続きが必要となる。

<カナダ>

通常、学生ビザなしの場合、カナダ入国の日から 6 ヶ月間滞在可。それ以上の滞在はできない。延長には期限終了の少なくとも5週間前に滞在延期を申請する必要あり。学習目的で6ヶ月以上の滞在を希望する場合は、学生ビザ(Study Permit)の取得が必要。

<ニュージーランド>

プログラム終了後、3週間滞在可。延長は最寄りの入国管理局で学生ビザが切れる前に手続きをしなければならない。

<アメリカ>

プログラム終了後、60日間滞在可。それ以上滞在する場合は最寄りの入国管理局で延長手続きが必要となるが、延長は基本できないと理解しておくこと。

<イギリス>

最長滞在期間は6ヶ月。学生ビザで入国しない限り、それ以上の延長はできない。

* なお、学生ビザを取得して入国した場合、同じ大学で、あるいは同国の別の大学で勉強を続けたい場合は、次の大学にその旨を伝えれば学生ビザの延長手続きを大学側がしてくれますので、ビザの有効期間を心配する必要はありません。

(2) 研修前後の計画について

本学では2年次前期は8月初めに終了し、その後8月の3週間強と9月が夏季休業期間、10月から後期が始まり、その終了は翌年の2月初旬となりますが、海外研修に参加する学生に関しては、海外研修先大学での 1 学期(秋学期)が終了した時点(遅くとも12月下旬)で2年次の学修は終了となります。そのため、本学キャンパスでは授業は続いているものの、海外研修参加者については、1月から3月まで授業はありません。従って、基本、8月から翌年3月末迄のおよそ8ヶ月間、学生は大学に戻る必要はありません。各研修先大学のプログラム開始時期により多少差はありますが、海外研修期間は約16週間

ですので、学生には海外研修終了後に3～4ヶ月間ほど自由に行動が出来る時間が生じることとなります。

学生によっては、海外研修プログラム直前に日本を立ち、プログラム終了後すぐに帰国する者もいれば、海外に出来る限り長く滞在するべく計画を立てる者もいるなど、その計画は様々です。もし、経済的・時間的余裕があれば、出来る限り海外から多くのものを得てきてほしいと願っています。その際時間の使い方はいろいろあると思いますが、以下は過去の学生達が体験してきた事例です。参考までに記します。

- 同一の大学で英語の勉強を続ける。
- 他大学のプログラムに移って英語の勉強を続ける。
- 許可を得て大学の授業に参加(聴講)する。
- ボランティア活動に参加する(但し、ホームステイは継続できない場合があるので注意。)
- 将来を考え、自分の視野を広げられるようなツアー等に参加する。
- 研修先の国で旅行をする。
- 他国を旅行する。

これらに関する情報、その他必要なアドバイスはできる限り提供しますので、気軽に相談に来てください。

＜重要＞

本学(MIU)の責任の及ぶ範囲は、あくまで「海外研修期間のみ」であり、そのプログラムの前後は学生個人の責任においての渡航・滞在となりますので、どんな計画を立てるにしても、学生は保護者とよく相談の上、責任を持って決定・行動してください。

(3)自動車等の運転について

学生の海外研修中の自動車やバイク等の運転の是非は、保護者の判断に委ねざるを得ませんが、本学としては勧めません。研修中自動車等の運転を希望する場合は、研修出発前に、日本で「国際運転免許証」を取得しておかなければなりません。研修先の国での運転は、その国や地域の状況を十分理解すると同時に、当然のことながらその国の交通法規を熟知しておかなければなりません。もし運転する場合は、もちろん飲酒運転は絶対に避け、国際的に有効な自動車保険に必ず加入した上で運転して下さい。ついながら、レンタカー会社では車を借りる際、ほとんどの場合、クレジットカード(VISA または MASTER カード)の提示を求められます。そのような事態を想定するのであれば、日本でクレジットカードを作っていく必要があります。

(4)海外送金(現地通貨の取得)について

＜現地で銀行口座を開く＞

現地の銀行で口座を開くと、お金の取扱いが簡単にできます。キャッシュカードも作成できるので、お店やレストランなどで現金が必要なときに ATM から現金を引き出すことができます。さらに、当座預金の口座を開くと、個人の小切手帳を作成することができ、ホームステイ代など、手数料なしで、あるいは安い手数料で支払うことができます。海外研修先のほとんどの大学ではオリエンテーション時に当座預金口座開設についての説明があります。

また、現地の銀行口座があると、日本からの送金の際にも使えます。但し、送金の際の手続きが複雑であること、送金手数料が多くかかること、また、現地銀行にお金が届くのには数日かかることがネックとなります。

＜プリペイドカード等を使う＞

(海外専用プリペイドカード等)

代表的なものとして、マスターカードが発行する「キャッシュパスポート」というカードがあります。通常のバンクカードのように、日本で作った自分の口座に入っている金額相当分を海外の ATM で引き出すことができます。口座は東京にあるため、国内送金で入金された金額は、その翌日には海外で引き落とし(利用)できるというメリットがあります。また、このカードは通常の MASTER カードの機能を持ち、デビットカードとして買い物に利用することができます。本学の学生は、ほぼ全員がこのキャッシュパスポートを作って海外での出費・出金に対応しています。

三菱東京 UFJ 銀行、三井住友銀行、みずほ銀行の大手都市銀行やゆうちょ銀行に加え、ドコモ海外送金、セブン銀行海外送金、PayPal、Transfer Wise などのオンライン送金サービスを使って送金することもできます。それぞれ、送金手続、送金手数料、為替レート等に違いがありますので、そのようなサービスを利用する場合は、よく調べてから申込をするようにしてください。

いずれにしても、多くの現金を持ち歩くべきではありません。海外研修事前指導セミナーで指導しますが、現金を持ち歩く際には十分注意をする習慣を身につけるようにしてください。

＜カード類について＞

前述したように、海外では多額の現金を持ち歩くのは避けるべきです。現金の代わりとして、クレジットカード／デビットカード／キャッシュパスポート／キャッシュカード(現地銀行発行)等のカード類やパーソナルチェック(現地銀行発行)を携行するようにしてください。特に数ヶ国を旅行する学生にとっては、キャッシュパスポートやクレジットカードは絶対に必要となります。

(クレジットカード、デビットカード、プリペイドカード(キャッシュパスポート等)について)

カードの一番のメリットは、現金を持ち歩かなくていいということです。日本では買い物はまだ現金で支払いをすることも多いですが、外国はカード社会で、特に欧米では社会の隅々にカードが浸透し、ちょっとした買い物にもカードを利用します。また、クレジットカードは身分証明書(ID)にもなります。しかし、カードでばかり買い物をしていると、どうしても金銭感覚が麻痺します。計画的に使うよう心がけてください。カードの種類としては、VISAカードとMASTERカードが最も利用度が高いものとなります。JCB は日本では一般的ですが、海外では使えないことがあるので注意してください。また、カードは、インターナショナルカード(海外で使えるもの)であることを確認し、取得して下さい。なお、キャッシュパスポートは、クレジットカードのようにIDの役割を果たすことはできませんが、前述したように、MASTER カードとしてクレジットカードと同様に利用できます。

9. 海外研修事前指導セミナーについて

学生は以下の内容に関する海外研修事前指導セミナーに出席することが義務づけられます。具体的な日時、場所、その他必要な情報は適宜 E-mail で連絡されますので、学生は学内メールには十分注意を払い、その都度必要な指示に従って行動して下さい。以下がセミナーで取り扱う内容の概要です。

- ① 研修申込み(研修先別)について
- ② ホームステイ申込み(研修先別)について
- ③ 学生 VISA 申請(国別)について
- ④ 渡航計画(航空券購入、ルート、接続等について HIS による説明会)について
- ⑤ 海外留学保険(東京海上日動火災による説明会)について
- ⑥ 海外生活における安全、生活、銀行手続等(注意事項、緊急事態への対応、研修先での医療機関の利用、送金手続、通貨、トラベラーズチェック、現金及びクレジットカードの所持、その他)について
- ⑦ 宿泊施設(ホームステイ、ホテル等)について
- ⑧ ポートフォリオの作成について
- ⑨ 英語力の向上について

⑩ 出発準備(現地の気候、到着後の入国手続、空港送迎、現地での支払い、学生了解書等)について

<各研修先でのオリエンテーションについて>

各大学では、プログラム開始前に独自のオリエンテーションが実施されます。そこで英語プログラムの内容から大学および大学所在地の案内、その他生活に関する様々な情報が提供されます。但し、大学によっては、これらの情報の詳細については書面のみで伝えられる場合もありますので、受け取った印刷物は全てよく目を通しておく必要があります。

(主な内容)

- a. 安全、セキュリティ対策・サービス
- b. 緊急時の対応、医療面の情報、学生の健康
- c. 交通手段
- d. ホームステイ・寮等の宿泊施設
- e. 口座の開設、キャッシュカードの利用方法
- f. 電話、Wifi の利用
- g. 個人の必需品、衣類等を購入する店
- h. 大学施設の紹介と利用方法(スポーツ施設、図書館、書店、カフェテリア等)
- i. 大学所在地の特色および魅力
- j. 学生活動や旅行
- k. 授業、試験等についての説明

能力に合ったクラスに学生を入れるため、ほとんどの大学でオリエンテーション時に英語力判定テスト(Placement Test)が行われます(渡航前にウェブで試験を受ける場合もあります)。受講する科目等については、その後別にオリエンテーションが実施され説明があります。以下はそこで話される内容の一部の例です。

- 1) アドバイザー、教員、プログラムディレクター、それぞれの役割
- 2) クラス分け、時間割、担当教員、授業教室
- 3) コースの選択
- 4) 履修科目の決定
- 5) テストスケジュール
- 6) E-mail アカウントの設定や学内コンピュータの利用方法
- 7) Listening/Learning Lab 等の学習施設の利用方法

10. 宿泊施設について

宿泊施設は、ニューブランズウィック大学のみが寮となり、その他の大学ではホームステイになります。ホストファミリーの手配は、研修先大学(10 大学)が自らのハウジングセクションで行うか、大学(5 大学)が推薦するホストファミリー紹介会社に本学が依頼して手配してもらうかのどちらかになります。ホストファミリーの選択は、ホームステイプログラムへの申込書に必要事項とともに希望・要望等を書くことはできますが、その決定はそれらの情報を総合して、大学側、もしくはホストファミリー斡旋会社が行い、本学もしくは学生に直接その情報が提供されます。ホストファミリー情報が知られるタイミングはまちまちであり、どんなに早くても渡航1カ月前くらいになります。

ホストファミリーの変更は、どうしても必要であると判断された場合、また、その理由に正当性があると判断された場合にのみ可能(基本無料)となります。単なるカルチャーショック、好み、利便性等、学生の個人的な理由に起因すると判断された場合には、まず変更はできません。但し、他のホストファミリーが見つかった場合、自己都合での変更は可能です。しかし、その際には、再度斡旋手数料が必要となります。また、その次の家庭が満足いく家庭となるかは滞在してみなければわかりませんので、そのような変更は、極めて慎重にすべきです。変更を考えるに相当すると思える事情があった場合は、まず大学側のハウジング担当者、もしくは、ホームステイ斡旋会社の担当者に相談してください。もちろん、どうしていいか判断がつかない場合は、本学担当者に連絡・相談してください。

なお、海外研修期間中は、本学と研修先大学の双方が認めた宿泊施設(ほとんどはホームステイ)のみが宿泊施設となり、自分で見つけたアパートやシェアハウス(一軒家を共同で借りる、あるいは寮)等の利用はできません。このポリシーに反し、独断で住居を変更した場合には、本学、研修先大学とも学生の宿泊施設、基本的生活に関わるいかなる責任も負えないこととなりますので、結果、学生の海外研修許可を取り消し、履修登録を無効にします(海外研修単位の認定を行いません)。

また、危機管理、緊急連絡の必要上、学生は、海外研修期間中は各自の連絡先を常に本学と研修先大学に知らせておくことが義務付けられます。

＜ホームステイに関する留意事項＞

前述の通り、研修先大学によって、どの家庭にホームステイするか連絡時期が大きく異なります。事前に知らされた場合は、出発前に電子メール等で連絡を取り、自己紹介をしておきましょう。

1) ホームステイの利点と欠点について

海外のホストファミリーは、現代の日本と同様、「父親、専業主婦の母と子供たち」といった、一般的に理想的と思われるような家族構成の家庭ではありません。むしろ、そうでない方が一般的です。定年退職した老夫婦、子供のいるシングルマザー(あるいはファザー)、多忙な社会人の一人暮らしの家庭、あるいは、20代後半から30代の若いカップルの家庭、という場合もあるかもしれません。また、大学から少し離れた地域にある家庭や、どちらかというと交通の便が悪い地域にある家庭もたまにあります。さらに、仕事や学校、スポーツクラブ等で忙しい家庭もあり、このような家庭では、子供でさえいつも家にいるとは限らず、コミュニケーションをしたくても出来ない場合もあります。さらに、その国の国籍は持っているものの、人種的には東洋系、南米系、中東系、欧州系等々、いわゆる「純粋な」アメリカ人、カナダ人、イギリス人、オーストラリア人、ニュージーランド人ではなく、移民の方の場合も多々あります。海外(特にアメリカ)は多文化共生社会なので、我々日本人が思い描くような家庭ではない場合の方が多いことを十分理解しておく必要があります。

海外の大学側、あるいは、ホストファミリー斡旋会社は、そのような家庭の事情を熟知しており、出来る限り学生の希望とホストファミリーの希望が合うような家庭を見つけるよう努力します。多くの家庭は異文化に興味を持っているがゆえにホストファミリーになっていますが、場合によっては、家計の一助とすべくホストファミリーになっているところもあります。しかし、そのような家庭でもホストファミリーとしての責任は十分に理解していますので、基本的には問題はありません。仮にその責任を果たさないようなホストファミリーであった場合には、大学側、あるいは、会社側がその対応をします。学生とも相談・協議を重ねた結果、問題が解決しないと判断された場合は、ホストファミリーの変更が行われます。

ホームステイに入る際は、理想的ホストファミリーの「夢」にとらわれず、自分が置かれた状況をよく理解した上で現実的に物事を見つめ、ホストファミリーとの人間関係作りを積極的に行うことで、ホームステイの経験を最大限有意義なものにしてほしいと思います。他人の家に滞在する、ましてや言葉と文化が大きく違う国の人たちと一緒に暮らすわけですから、始めはストレスも大きく、誰しも大変さを感じるものです。しかし、それを乗り越えると、日本では決して得られない、かけがえのない体験ができたという満足感が生まれます。これまで海外研修に行った学生たちは、皆そのような感慨を持って帰国しています。有意義なホームステイ体験を一日でも早く実現する。そのためには、頭(知識)と心の準備を十分にしておくことが肝要です。

なぜホームステイなのか。その理由としては以下のようなものを挙げることができます。

- a. 海外研修の国における日常生活を学ぶ最良の方法である。
- b. ただ訪問するだけでは経験出来ない、多くの活動に参加することが出来る。
- c. 新しい文化に順応するのが難しいと感じた場合、相談相手になってくれる人たちがいる。
- d. 生涯の良き友人を作る機会がある。

2)ホストファミリーでの食事について

ほとんどの場合、ホストファミリーとの契約では、原則、毎日朝食と夕食の2食が提供されることになっています。ただし、夕食は作ってくれますが、朝食はその家にあるものを使って自分で用意する場合がほとんどです。これは、朝食についてはどの家庭も仕事等の関係で忙しく、家族がいつも一緒に食べる習慣がない場合が多いからです。その場合は、自分で勝手に冷蔵庫を開けて朝食を用意してもまったく問題ありません。家庭は食材を提供する義務があることを十分理解していますので、問題はありません。昼食は、ほとんどの場合大学にいるわけですから、自分で購入します。ホストファミリーでの食事については、自分の好き嫌い、あるいは、YES/NOをはっきり相手に伝えることが重要です。自分の好みをはっきり告げ、ほしいものはほしい、いらないものはいらないといった、はっきりした態度を示すことが大事で、余計な遠慮はかえってホストファミリーにとって負担になります。ホストファミリーの習慣をよく観察して、また、積極的に質問して、一日も早く「家族の一員として」できるだけ自然な行動を取るよう心がけましょう。

3)通学等について

ホームステイ中、家庭によっては、朝、大学に送ってくれるところもあるかもしれませんが(少数派です)、そうでない場合は、大学が近い場合は自転車での通学、しかし多くの場合は、バスか電車等の公共交通機関を利用することになります。ホームステイ先は、研修先大学、あるいはホストファミリー斡旋会社が交通の便を考えて選んでいますので、通学には大きな問題はないはずですが、通学時間としては、通常、30分から60分くらいのところになることは理解しておいてください(場所によっては60分を超えることも過去にありました)。また、研修先によっては、現地の公共交通機関の少なさに驚くかもしれません。カナダ、オーストラリア、アメリカでは自家用車への依存度が高く、車を持たない学生は、出来るだけ快適な学生生活を送るべく、車を所有している学生を友人にして利便性を高めているのが現実です。

4)問題の対処について

前述したように、正当な理由があればホームステイ先を変えることは出来ます。しかしその場合、まずは何が問題かをしっかり認識・確認し、それを関係者に知らせる必要があります。そのような事態が起こった場合は、必ず以下の行動を取ってください。

1. まず、何が問題かをしっかり把握する。気に入らない事、満足出来ない事、居心地が悪いこと等を文章にする。
2. 次に、その問題、悩み事を、話しやすい誰かに説明し、聞いてもらうこと。その人がホストマザーの場合もあるし、ハウスメイト(同居している留学生)、授業の先生、アカデミックアドバイザー、サイトメンターの場合もあるかもしれません。
3. 次に、研修先大学がホストファミリーの紹介をしている場合には、大学のハウジング(住居)担当者に(各センターには必ずハウジング担当者がいます)、また、会社が紹介している場合は本学の担当者(事前に情報を渡します)に直接連絡して、その状況をはっきり説明し、その問題の解決を依頼します。もし、その状況を改善するのに良い考えがあるようであれば提案してください。その際、その問題がその地域の習慣に起因するかどうかを尋ねることを忘れないでください。その地域の習慣を理解していない自分自身に問題がある場合もありますので、注意してください。
4. その後依然として問題が解決されていないと思った場合は、大学の英語プログラムのディレクター、あるいはコーディネーター等の管理責任者の所に行き、自分がMIUの学生であり、手助けが必要であることを伝え、その問題を再度説明の上、解決を依頼します。
5. それでも解決しない場合は、本学担当者(西村及びグローバル教育センター(田畑))に大学のメールや電話等を使って、その問題について知らせ、助けを求めてください。

* 上記の手順は、3を除けば、海外研修中の他の様々な問題への対処方法ともなりますので、しっかり理解しておいてください。過去に様々な問題がありましたが、全て解決し、ほとんどの学生は、後日その体験が将来のためにいい経験だったと話しています。

11. カルチャーショックについて

海外研修を体験した学生の多くは、その程度の差こそあれ、それなりにカルチャーショックを受けるものです。これは自分の家を離れて異国で生活する者に共通して起こる心理的反応です。ほとんどの人が次の4期を経るといわれます。

1. 全ての新しいものに驚き、興味を持つ興奮期
2. 新しいもの、異質なものに苛立ち、退屈を感じたり、なじみのあるもの、心地よいものの方に戻りたいと思う不満期
3. 新しい物にもはや圧倒されることなく、古いものは、もはや必要としない適応期
4. 自分の家に帰り、固有の文化に戻った時、昔から慣れ親しんだものが、もはや自分に合わなくなっていることを発見してショックを受ける再入国期。この時期、友人や家族が自分のしてきた経験にあまり興味を示していないと感じたり、理解していないと思う。

保護者の方は、海外に出た学生とのやりとりを通じて、彼らが強いカルチャーショックを受けていると気づかれることがあるかと思います。しかし、ご安心下さい。このカルチャーショックは全く正常な反応であり、時間と共に解消する問題です。最初の1ヶ月間が最も困難な時期です。学生は新しい文化の中でどのように問題を解決したらよいのか、その方法をまだ学んでいません。しかし、各国の大学の教職員は、長年にわたりカルチャーショックに陥った学生の手助けをした経験を持っています。また、学生は本学を出発する前に十分問題解決の方法について学んでいるはずです。問題を解決してくれる適任者を見つけ、その人に何が問題で、何を解決すれば楽になるのかを話すことで、カルチャーショックを乗り切ることができます。

保護者の方は、学生から、自分がいかに不幸なのかを切々と語る、絶望的にさえ聞こえる電話を受け、ショックを受けられることがあるかもしれません。しかし、学生はその数時間後には友人と買い物に出かけたり、あるいは何らかの手助けを得たことにより、家で心配している家族のことをすっかり忘れ、晴れ晴れとした気持ちで過ごしていることもよくあるものです。しかし、何度か学生と連絡を取り、問題が深刻であると思われた場合は、本学にご連絡下さい。我々も研修先大学の担当者と電子メール、Zoom や電話を使って連絡を取り、最善の方法を見だし、最大限、早期の問題解決に努力します。

<海外研修を終えた学生からのアドバイス>

『見知らぬ国に住み、味わったことのない食事を食べるのは一種のカルチャーショックでした。学生の中には随分苦労している人もいました。中にはつらくて、家に帰りたいたいと思っていた者もありました。でもこのように感じたら、皆さんは部屋に閉じこもらずに、外に出て、人々と出会って下さい。様々な活動に参加しましょう。買い物に出かけるのもいいでしょう。そうすれば、すぐに生活は快適になってきます。友達も出来ますよ。私達もそうして成功したんです。』

もう少しアドバイスをすると、日本米、日本茶、お気に入りの食べ物を持って行って下さい。大好きな、なじみの食べ物がカルチャーショックを忘れられる一時を提供してくれます。ただし、それはたまにはいいけど、毎日駄目ですよ。

最後に、その土地の食べ物に気が進まなければ、ピザやマクドナルド、ケンタッキーフライドチキンなどを利用してみて下さい。そういう食べ物はどこにでもあります。それらもつらさを忘れさせてくれるかもしれません。』

12. 起こりうる典型的問題と不満について

学生が新しい国での生活や勉学に入ると出てくる典型的な問題、あるいは不満を以下に記します。これらの多くは決して特別なものではなく、学生は時間の経過とともにそれらを消化し、ある時期がくると全く問題として認識なくなり、当然のことにように順応していく性質のものがほとんどです。もちろん、どうしても我慢出来ないものについては何らかの対処が必要であることは言うまでもありません。

- ホストファミリーが気に入らない—交通の便が悪い。大学、ショッピングセンター等から遠すぎる。騒々しい。プライバシーがない。家族のだれとも話さない。バスルームに慣れない。食事は配膳されず、自分でするように言われた。習慣に慣れず孤独である。
- ハウスメイトが気に入らない—うるさい。寝ない。いつも寝ている。友好的でない。
- 町や授業が退屈で気に入らない。
- 食物に嫌気がさす—日本米でないので、飯がまずい。何も食べたくない。太ってくる。
- 大学の授業が気に入らない—簡単すぎる。きつすぎる。日本人が多い。ネイティブの学生と話す機会を作るのが難しい。友人を作るのが難しい。
- 日本人が気に入らない—他の日本人は英語を話そうとしない。親切でもない。異文化に対する理解が欠けているので他の学生を困惑させる。日本人学生が日本人のグループに入らなければ腹を立てる。日本人のくせにやたらと英語を話したがる。外国人を友人に持ちたがる。
- 自由研究が難し過ぎる—一題材が思いつかない。題材を絞りこめない。インタビューするのが怖い。すべての課題をする時間的余裕がない。

保護者の皆さんは、最初の1ヶ月が過ぎると、これらの不満のほとんどが解消されたことを知り、安心されることと思います。一つの問題を解決出来ると、学生は次の問題も解決できるようになり、そして、そうしていくことが毎日の生活の一部になっていきます。

ある時、学生が本学に送ってきた海外研修レポートのうちの9割に、海外にもっと長くいたい、本学に、あるいは日本に帰りたくない、友人と別れるのが悲しい、食習慣になったフィッシュ・アンド・チップス(イギリスの代表的な食べ物)などが食べられなくなるのが悲しい、といった意見がみられました。このような他国の環境に成功裏に順応することは、海外研修体験の重要な要素の一つです。これらの経験はその後の成長への重要な大きなステップであり、今後の人生の飛躍への貴重な準備の一環といえます。

13. 学内研修について

経済的理由、健康上の問題等やむを得ない事情がある場合は、学内での研修(海外研修の「学内研修」)が可能となります。学内研修を希望するかどうかについては、グローバル教育センター(田畑)からアンケート調査を行う場合もありますが、事前に相談が必要な場合は、気軽に西村のオフィスに来てください。

なお、本学としては、海外において15週間～17週間で問題なく過ごすにあたり障害となる可能性のある慢性的疾患を持っている学生に対しては、「学内研修」という選択肢を強く勧めます。また、英語力や成績に大きな問題があると判断された学生に対しては「学内研修」を課す場合もあります。なお、海外研修参加に必要な単位(26単位)を取得していない学生は、海外研修プログラム(海外及び学内)そのものに参加できません。

14. 保護者のミーティングについて

(1) 三者面談

学生にとって、また、その保護者にとっても、海外研修は大事業です。そして、それを成し遂げるための計画・準備の指導・お手伝いをするのが私たちの役割です。

保護者の皆様には、海外研修に関してご質問やご心配等がおありの際は、いつでも気軽に西村、あるいは、グローバル教育センター(田畑)までご連絡ください。電話やメールの他、必要があれば、面談もいたします。連絡先電話番号、担当者等は以下の通りです。

副学長: 西村直樹

グローバル教育センタースタッフ: 田畑朝美

電話番号: (0985) 85-5931 (代)

月曜日～金曜日: 午前9時～午後5時

(2) 保護者説明会

前述の通り、第2回目となる海外研修説明会は、2026 年 4 月 5 日(日)午後1時から行う予定です。説明会前後にも個別面談ができますので、ご希望の際は事前にご連絡ください。

15. 緊急連絡先について

1) 西村直樹

Eメール: nnishimu@miu.ac.jp

2) MIU グローバル教育センター(担当: 田畑朝美)

Eメール: studyabroad@miu.ac.jp

16. 海外研修単位取得に係るガイドライン及び同意承諾・誓約書

(Acknowledgement of Understanding/Letter of Pledge for Study Abroad)

私は、以下の「海外研修単位取得に係るガイドライン」及びその後に付記されている＜重要事項＞を十分に理解し、海外研修参加・海外研修単位取得に係わる諸要件を誠実に実行することをここに誓約します。また、要件を満たない場合は、海外研修単位が取得できない、あるいは、進級できない可能性があることを十分に理解していることをここに確認します。

海外研修単位取得に係るガイドライン

1. 海外研修科目(SAB 201、SAB 202、SAB 203)の単位取得にあたっては、学生は受講する全科目をパスするとともに、完成したポートフォリオ(諸課題集)を締切日までに研修先の本学担当教員(サイトメンター)に提出しなければならない。その具体的提出締切り期限については、各研修先サイトメンターより連絡される。そしてその後、そのポートフォリオをMIU教務担当者(学部長等)へ提出しなければならない(ポートフォリオ作成に関しては以下を参照)。
2. 海外研修に行く前の2026年7月と海外研修後の2027年4月にTOEIC試験を受験することが義務づけられている。帰国後TOEIC試験を受けなければ、海外研修単位は認定されない。

＜ポートフォリオ(諸課題集)作成について＞

一学期間、学生は研修先で現地の本学担当教員と定期的に会い、ここに記されるポートフォリオの進行状況について話し合う。また、学生はポートフォリオの進行状況を、必要に応じて、または、報告を求められた際は、本学担当者にEmailで連絡するものとする。なお、ポートフォリオは以下の4つのセクションを含まねばならない。

- (1) 英語セクション (SAB201)
- (2) 自由研究セクション (SAB202)
- (3) 地域研究セクション1 (SAB203)
- (4) 地域研究セクション2 (SAB203)

*(3)と(4)は地域研究セクションとして一つになっていても問題ない。

(1) 英語セクション: 最低3,750ワード(10ページ相当)

該当科目(単位): SAB201 英語(6単位)

ポートフォリオの英語セクションには、英語の授業で提出した課題の中から最も出来の良かった作品の幾つかを選び、入れるものとする。このセクションは少なくとも最低 3,750 ワード(10ページ)以上の文章を含むものとする。授業で渡されたワークシート、ボキャブラリーやイディオム等のリストは含むことができず、自分自身が作成したオリジナルのもの(自分が書いた英語の文章)のみがカウントされる。

* 受講した授業はその担当教員によって評価される。宮崎国際大学の単位取得のためには、受講した全ての授業をパスしなければならない。

(2) 自由研究セクション: 最低3,750ワード(10ページ相当)

該当科目(単位): SAB202 自由研究(2単位)

学生は研修先の国、地域、文化に関わるテーマを自ら設定し、地域社会、コミュニティに直接働きかけることによってそのテーマを追求し、自らの研究論文(あるいはレポート)として仕上げる。そのテーマの選択にあたっては、自身の興味を反映するとともに、地域に自分自身を積極的に関与させるものであることが望ましい。そのため、図書館、インターネットを使つての情報収集に留まらず、聞き取り調査、観察、アンケート実施等を行い、それらを分析することで実態を理解し、その後、自らの意見をもってそれなりの結論を導き出すよう努力することが求められる。Independent Study(自由研究)の論文を作成するに当たつての注意点・留意点は以下の通りである。

- ① 自らの研究テーマがあつての研究であるので、現地で何かに興味がわいたからといって、ただ単にそれについて情報を集めてまとめただけでは研究論文としては不適切である。

- ②研究テーマを日本、日本文化・慣習、日本人的発想(自分の考えを含む)との比較において立てることが重要である。そうすることにより、前提として考えること、書く事が自ずと出現し、研究の意義が深まるとともに、作成が容易となる。
- ③写真、イラスト等は含めてもいいが、あくまで自ら書いた文章量(ワード数)が評価の判断基準となる。地域の情報を知る、インタビューする相手を見つける、その約束を取る、研究のためにボランティア活動が出来る適切な場所を見つける、その他研究に関するアドバイスが必要な場合は、研修先の本学担当教員(サイトメンター)に相談すること。また、研究の進捗度については、サイトメンターが把握できるように適宜連絡しておくこと。グローバル教育センターのアドバイスが必要な場合は、MIU メールや Line を使って相談すること。
- ④AIを利用して作成された文章を、あたかも自ら書いた文章であるかのように提出する(学生自身の英語力と極端にかけ離れているものを提出する)行為は、「AIによる剽窃(AI plagiarism)」にあたる。これは、自分が作成していない文章を成果物として提出する点で、一般的な剽窃と同様に不正行為とみなされる。AIをアイデアの整理や学習補助ツールとして利用することは問題ないが、生成内容をそのまま提出することは認められない。学生自身の思考・表現が確認できない場合、不正行為として扱われ、成績評価に影響することに留意すること。

(3)・(4)地域研究セッション1 & 2: 合計 最低 7,500 ワード(20 ページ相当)

(1、2 と必ずしも分かれている必要はない)

該当科目(単位): SAB203 地域研究(6単位)

基本的には自らが書いたエッセイやレポート等によって構成される。その内容は多岐に渡って構わないが、原則として海外(滞在先等)で体験したこと、気づいた文化的違い、現地の様子、文化の異なる人々との触れ合い等、海外の諸地域に行かなければ知り得なかった事柄についての作文、エッセイ、あるいはレポートとなること。その材料となる活動としては以下のようなものが挙げられる。

- ・ 地域でのボランティア活動への参加
- ・ 講演会への出席
- ・ 本学指定以外の研修先大学正規開講クラスへの参加(聴講)
- ・ 大学の生涯教育課あるいは地域のコミュニティセンター主催の授業への参加
- ・ 地域の文化的あるいは歴史的場所・施設、地域住民の会合、教会、美術館・博物館、学校、諸奉仕団体、等々の訪問

また、英語の授業(英作文の授業等)の中で書いた、社会や文化に関するエッセイやレポートを含んでも構わないが、English Section とはその趣旨が異なることに留意して、地域研究用の文章として必要な校正をすること。その他、自らの海外体験を綴った日誌なども使うことができるが、その際は、必ず題名を作り、その題名下で内容をまとめること。日付で書いただけの日記は認められない。

以下はトピックの例である。

- ・ 新しい町における交通手段
- ・ 短い日帰り旅行の旅日記
- ・ 海外生活に対する個人的感想
- ・ 研修国での英字新聞に出た日本に関する記事を読んで
- ・ 自分の感想、意見、アドバイスなどを含む海外研修最終レポート

なお、前述の通り、AIを利用して作成された文章を、あたかも自ら書いた文章であるかのように提出する(学生自身の英語力と極端にかけ離れているものを提出する)行為は、「AIによる剽窃(AI plagiarism)」にあたる。

※上記(2)の④を再度確認すること！

(大学の正規授業を受講する場合)

いくつかのサイトでは、学生の英語力が高い場合、1つもしくはそれ以上の正規授業を履修することができるが、その場合、その受講は「地域研究」該当科目とする。但し、授業はリベラルアーツ科目(人文科学、社会科学及び地域研究関連科目)でなければならないため、希望するコースが取れるかどうかは事前に本学に確認し了承を得なければならない。提出物には、授業での配布物の他、少なくとも 10 ページ以上自らが作成した(書いた)文章(課題等)を含んでいなければならない。授業評価は現地担当教員がおこなう。なお、本学の単位取得のためには、その受講したコースをパスしなければならない。聴講生として授業を受ける場合は、そこでの評価はサイトメンターが行い、その学習状況は本学に報告される。

※TOEFL や TOEIC の英語試験対策コース等を履修できる場合もあるが、これらの科目で取り扱った内容は地域研究課題の一部としてはカウントされない。

＜重要事項の確認＞

* 詳細は上記あるいは海外研修の手引きを参照のこと。

- (1) 海外研修科目の単位取得のためには、海外で履修した全ての科目をパスしなければならない。
- (2) 海外研修科目の単位取得のためには、ポートフォリオを作成し、研修先の本学担当教員（サイトメンター）に期限内に提出し、その承認を受けた後にそのポートフォリオを MIU 教務担当者（学部長等）へ提出しなければならない。ポートフォリオの作成等に関する注意事項は以下の通りである。
 - 1) ポートフォリオ内各セクションの個別トピックの文章は、ワードカウントをした上で、そのワード数を記入すること。データやグラフ等、自らが作成していない外部の情報に文字が入っている場合があるが、それらは必要ワード数には含まれないことを理解しておくこと。
 - 2) ポートフォリオの本学への提出期限は 2027 年 1 月 31 日（金）午後 11 時 59 分 59 秒（日本時間/変更がある場合は連絡する）とし、各研修大学での提出期限は、各研修先大学のサイトメンターの指示に従うものとする。なお、ポートフォリオの評価及び海外研修単位（14 単位）の認定（P（Pass）あるいは F（Fail））は、海外研修参加年度（2 年次）の2月初めに行われ、特別な事情（健康上の問題等）がない限り、海外研修の単位認定が3年次以降に行われることはない。
 - 3) 他人が書いたものを流用する盗用・剽窃（ひようせつ）行為はポートフォリオの中のいかなる部分においても許されない。盗用・剽窃であることがわかった箇所は、最低限書き直しとなり、その程度が悪質と判断された場合には単位の取得が認められない場合もある。

なお、AI を利用して作成された文章を、あたかも自ら書いた文章であるかのように提出する行為は、「AI による剽窃（AI plagiarism）」にあたる。これは、自分が作成していない文章を成果物として提出する点で、一般的な剽窃と同様に不正行為とみなされる。AI をアイディアの整理や学習補助ツールとして利用することは問題ないが、生成内容をそのまま提出することは認められない。学生自身の思考・表現が確認できない場合、不正行為として扱われ、成績評価に影響することに留意すること。
- (3) 海外研修科目の単位取得のためには、海外研修前後に TOEIC を受験しなければならない。
- (4) 海外研修後 3 年次開始までに TOEIC500 点、もしくは、TOEFL IBT 45 点を取得していない場合は、原則として 3 年次に進級できない。
- (5) 海外研修単位（卒業必修単位）を取得できなかった場合（研修先大学の履修科目で不可（F）を取る、あるいは、ポートフォリオを期限までに提出しない等の理由による）は、3 年次の秋学期に「海外研修」の「学内研修プログラム」の履修をもって海外研修単位を取得しなければならない。
- (6) 「海外研修」参加者全員、研修終了後の3年次前期（4 月下旬を予定）に「自由研究」で提出した研究論文（レポート）のポスタープレゼンテーションを行うこと。

※海外研修の成果報告会として位置づけられているため、全員実施となる。

私は上記を全て理解・承諾した上で海外研修に参加します。

学籍番号:

日付: _____ / _____ / _____

(MM / DD / YYYY)

氏名・署名: _____

参考資料－１

１．在日公館リスト

アメリカ合衆国大使館 **Embassy of the United States of America in Japan**

〈東京〉〒107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5 TEL: 03-3224-5000
(Tokyo) 107-8420 Tokyo-to, Minato-ku, Akasaka 1-10-5

アメリカ合衆国総領事館 **Consulate-General of the United States of America**

〈大阪、神戸〉〒530-8543 大阪市北区西天満 2-11-5 TEL: 06-6315-5900
(Osaka, Kobe) 530-8543 Osaka-shi, Kita-ku, Nishitenma 2-11-5

〈那覇〉〒901-2101 浦添市当山 2 丁目 1-1 TEL: 098-876-4211
(Naha) 901-2101 Urasoe-shi, Touyama 2-1-1

〈札幌〉〒064-0821 札幌市中央区北一条西 28 丁目 TEL: 011-641-1115
(Sapporo) 064-0821 Sapporo-shi, Chuo-ku, Kita Ichijo-nishi

アメリカ合衆国領事館 **Consulate of the United States of America**

〈名古屋〉〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1-47-1 名古屋国際センタービル 6 階
TEL: 052-581-4501
(Nagoya) 450-0001 Nagoya-shi, Nakamura-ku, Nagono 1-47-1, Nagoya Center Building 6F
〈福岡〉〒810-0052 福岡市中央区大濠 2-5-26 TEL: 092-751-9331
(Fukuoka) 810-0052 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Ohori 2-5-26

カナダ大使館 **Embassy of Canada in Japan**

〈東京〉〒107-8503 東京都港区赤坂 7-3-38 TEL: 03-5412-6200
(Tokyo) 107-8503 Tokyo-to, Minato-ku, Akasaka 7-3-38

カナダ名誉領事館 **Honored Consulate of Canada**

〈札幌〉〒064-0820 札幌市中央区大通西 26 丁目 1 番 3 TEL: 011-643-2520
(Sapporo) 064-0820 Sapporo-shi, Chuo-ku, Odori Nishi 26-1-3

〈福岡〉〒810-8720 福岡市中央区渡辺通り 2-1-82 九州電力(株)内
TEL: 03-5412-6200
(Fukuoka) 810-8720 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Watanabe-dori 2-1-82 Kyushu Electric Power Co., Inc.
〈広島〉〒731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1 広島経済大学内 TEL: 082-875-7530
(Hiroshima) 731-0192 Hiroshima-shi, asaminami-ku, Gion 5-37-1

カナダ領事館 **Consulate of Canada**

〈名古屋〉〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-17-6 ナカトウ丸の内ビル 6 階
TEL: 052-972-0450
(Nagoya) 460-0002 Nagoya-shi, Naka-ku, Marunouchi 3-17-6 Nakato Marunouchi Bldg. 6th fl.

オーストラリア大使館 **Australian Embassy in Japan**

〈東京〉〒108-8361 東京都港区三田 2-1-14 TEL: 03-5232-4111
(Tokyo) 108-8361 Tokyo-to, Minato-ku, Mita 2-1-14

オーストラリア総領事館 **Australian Consulate-General**

〈大阪〉〒540-6116 大阪市中心区城見 2-1-61 ツイン 21MIDタワー 16 階
TEL: 06-6941-9271
(Osaka) 540-6116 Osaka-shi, Chuo-ku, Shiromi 2-1-61 Twin 21 MID Tower 16th fl.

ニュージーランド大使館 **New Zealand Embassy in Japan**

〈東京〉〒150-0047 東京都渋谷区神山町 20-40 TEL: 03-3467-2271
(Tokyo) 150-0047 Tokyo-to, Shibuya-ku, Kamiyama-cho 20-40

ニュージーランド名誉総領事館 **Honorary Consulate-General of New Zealand**

〈大阪〉〒556-8601 大阪市浪速区敷津東 1-2-47 株式会社クボタ内
TEL: 06-6648-3131
(Osaka) 556-8601 Osaka-shi, Naniwa-ku, shikitsu higashii 1-2-47, Kubota Corporation
ニュージーランド名誉領事館 **Honorary Consulates of New Zealand**

〈札幌〉〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 10 丁目 2-7 Wall601 号室 株式会社きのとや内
TEL: 090-7400-6358
(Sapporo) 064-0020 Sapporo-shi, Chuo-ku, kita2-jo Nishi 10-2-7, Wall #601
〈福岡〉〒812-0011 福岡市中央区天神 1-11-1 ONE FUKUOKA BLDG. 10 階
西日本鉄道株式会社内 TEL090-2212-7323
(Fukuoka) 810-0011 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Tenjin 1-11-1, ONE FUKUOKA BLDG. 10th fl.
Nishi-Nippon Railroad Co., Ltd.
〈名古屋〉〒454-0802 名古屋市中川区福住町2-26 リンナイ(株)内
TEL: 090-5524-0063
(Nagoya) 454-0802 Nagoya-shi, Nakagawa-ku, Fukuzumi-cho 2-26, Rinnai Co. Bldg.

英国(イギリス)大使館 **His Britannic Majesty's Embassy in Japan**

〈東京〉〒102-8381 東京都千代田区一番町1 TEL: 03-5211-1100
(Tokyo) 102-8381 Tokyo-to, Chiyoda-ku, Ichiban-cho 1

英国総領事館 **British Consulate-General in Osaka**

〈大阪〉〒541-0059 大阪府中央区博労町3-5-1 御堂筋グランドタワー19階
TEL: 06-6120-5600
(Osaka) 541-0059 Osaka-shi, Chuo-ku, Bakuro-cho 3-5-1, Midosuji Grand Tower. 19th fl.

英国名誉領事館 **British Honorary Consulate in Kitakyushu**

〈福岡〉〒802-0077 北九州市小倉北区馬借1-7-17 J-フィールド3F
ローレンス英会話教室内 TEL: 093-541-5605
(Fukuoka) 802-0077 Kitakyushu-shi, Kokura Kita-ku, Basyaku 1-7-17, J-Field 3F,
Lawrence English School

2. 在外公館リスト

在アメリカ日本国大使館・総領事館 (U.S.A.)

在アメリカ合衆国日本国大使館 Embassy of Japan

2520 Massachusetts Avenue N.W., Washington D.C., 20008-2869
Tel: 1-202-238-6700

在アトランタ日本国総領事館 Consulate-General of Japan

3438 Peachtree Road, Suite 850, Atlanta, GA 30326
Tel: 1-404-240-4300

在サンフランシスコ日本国総領事館 Consulate-General of Japan

275 Battery Street, Suite 2100, San Francisco, California 94111
Tel: 1-415-780-6000

在シアトル日本国総領事館 Consulate-General of Japan

701 Pike St., Suites 1000, Seattle, WA 98101
Tel: 1-206-682-9107~10

在シカゴ日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Olympia Centre, Suite 1100, 737 North Michigan Avenue, Chicago, Illinois 60611
Tel: 1-312-280-0400

在デトロイト日本国総領事館 Consulate-General of Japan

400 Renaissance Center, Suite 1600, Detroit, Michigan 48243
Tel: 1-313-567-0120, 0179

在デンバー日本国総領事館 Consulate-General of Japan

1225 17th Street, Suite 3000, Denver, Colorado 80202
Tel: 1-303-534-1151

在ナッシュビル日本国総領事館 Consulate-General of Japan

1801 West End Avenue, Suite 900, Nashville, TN 37203
Tel: 1-615-340-4300

在ニューヨーク日本国総領事館 Consulate-General of Japan

299 Park Avenue, New York, NY 10171

Tel: 1-212-371-8222

在ハグニャ日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Suite 604, Guam International Trade Center Building, 590 South Marine Corps

Drive Tamuning, Guam 96913

Tel: 1-671-646-1290, 646-5220

在ヒューストン日本国総領事館 Consulate-General of Japan

2 Houston Center, Suite 3000, 909 Fannin Street, Houston, Texas 77010

Tel: 1-713-652-2977

在ボストン日本国総領事館 Consulate-General of Japan

100 High Street, 6th Floor, Boston, Massachusetts 02210

Tel: 1-617-973-9772 ~ 4

在ホノルル日本国総領事館 Consulate-General of Japan

1742 Nuuanu Avenue, Honolulu, Hawaii 96817-3201

Tel: 1-808-543-3111

在マイアミ日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Brickell City Tower, Suite 3200, 80 S.W. 8th Street, Miami, Florida 33130

Tel: 1-305-530-9090

在ロサンゼルス日本国総領事館 Consulate-General of Japan

350 South Grand Avenue, Suite 1700, Los Angeles, California 90071

Tel: 1-213 617-6700

在アンカレジ領事事務所 Consular office of Japan

3601 C Street, Suite 1300, Anchorage, Alaska 99503

Tel: 1-907-562-8424

在サイパン領事事務所 Consular office of Japan

Suite 201, MH1 Bldg, Marina Heights Business Park, Puerto Rico, Saipan, MP

96950

Tel: 1-670-323-7201, 323-7202

在ポートランド領事事務所 Consular office of Japan

2700 Wells Fargo Center, 1300 S.W., 5th Avenue, Portland, Oregon 97201

Tel: 1-503-221-1811

在カナダ日本国大使館・総領事館 (Canada)

在カナダ日本国大使館 Embassy of Japan

255 Sussex Drive, Ottawa, Ontario K1N 9E6, Canada

Tel: 1-613-241-8541

在カルガリー日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Suite 950, 517-10th Avenue SW Calgary, Alberta T2R 0A8

Tel: 1-403-294-0782

在トロント日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Suite 3300, 77 King St. W., Toronto, Ontario, M5K 2A1

Tel: 1-416-363-7038

在バンクーバー日本国総領事館 Consulate-General of Japan

900-1177 West Hastings Street, Vancouver, B.C., V6E 2K9, Canada

Tel: 1-604-684-5868

在モントリオール日本国総領事館 Consulate-General of Japan

1, Place Ville Marie, Bureau 3333 Montreal (Quebec) Canada H3B 3N2

Tel: 1-514-866-3429

在オーストラリア日本国大使館・総領事館 (Australia)

在オーストラリア日本国大使館 Embassy of Japan

112 Empire Circuit, Yarralumla, Canberra A.C.T. 2600

Tel: 61-2-6273-3244

在シドニー日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Level 12, 1 O'Connell Street, Sydney, N.S.W. 2000, Australia

Tel: 61-2-9250-1000

在パース日本国総領事館 Consulate-General of Japan

U22/Level 2, 111 Colin Street, West Perth, WA 6005

Tel: 61-8-9480-1800

在ブリスベン日本国総領事館 Consulate-General of Japan

17th Floor, 12 Creek Street, Brisbane, Queensland 4000

Tel: 61-7-3221-5188

在メルボルン日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Level 25, 570 Bourke Street, Merlbourne, VIC 3000

Tel: 61-3-9679-4510

在ケアンズ日本領事事務所 Consulate-General of Japan

Level 15, Cairns Corporate Tower, 15 Lake street, Cairns, QLD 4870

Tel: 61-7-4051-5177

在ニュージーランド日本国大使館・総領事館 (New Zealand)

在ニュージーランド日本国大使館 Embassy of Japan

Level 18, Majestic Centre, 100 Willis Street, Wellington 1

Tel: 64-4-473-1540

在オークランド日本国総領事館 Consulate-General of Japan

Level 15, AIG Building, 41 Shortland Street, Auckland CBD

Tel: 64-9-303-4106

在クライストチャーチ領事事務所 Consular Office of Japan

172 Hereford Street, Christchurch, New Zealand

Tel: 64-3-366-5680

在英国日本国大使館・総領事館 (U.K.)

在英国日本国大使館 Embassy of Japan

101-104, Piccadilly, London, W1J 7JT

Tel: 44-20-7465-6500

在エディンバラ日本国総領事館 Consulate-General of Japan

2 Melville Crescent, Edinburgh EH3 7HW

Tel: 44-131-225-4777

参考資料－2

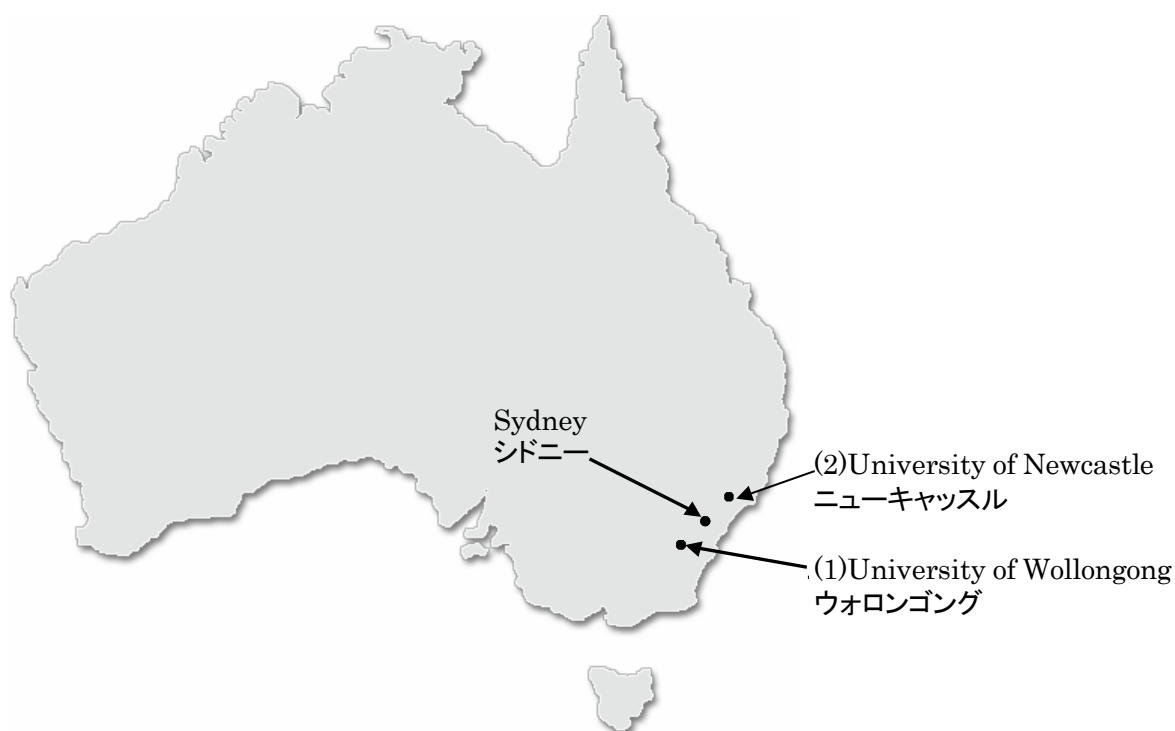
各研修先大学の紹介

	国別	海外研修大学	ページ
1	オーストラリア	ウォロンゴン大学	33
2		ニューキャッスル大学	34
3	ニュージーランド	オタゴ大学	35
4	カナダ	ビクトリア大学	40
5		トンプソン・リバーズ大学	43
6		ニュー・ブランズウィック大学	44
7	アメリカ	カリフォルニア州立大学サンマルコス校	47
8		サンディエゴ州立大学	48
9		アリゾナ州立大学	49
10		ユタ大学	50
11	イギリス	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学	52

注) 記載した情報は2025年度のものであり、変更される可能性があります。

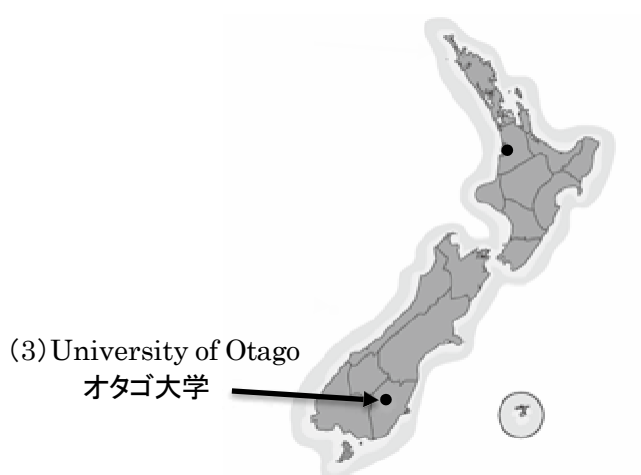
Australia

オーストラリア



New Zealand

ニュージーランド



1. ウォロンゴン大学 (University of Wollongong)

Group Program General English (Study Tours)

Wollongong NSW 2500 Australia

Phone: 61-2-4252-8804 Fax: 61-2-4221-3233

Contacts: Nikki Cole, ELICOS Program Manager/Coco Toh, Admissions & Study Tours Officer

(1) 紹介

ウォロンゴン市はオーストラリアで7番目に大きい都市で、シドニーの中心部から列車で南に1時間半の距離にある。「ウォロンゴン」とは「山と海の間」という意味で、大学は熱帯雨林に覆われた崖を見上げるなだらかな傾斜地にあり、美しい海岸から数分のところにある。幅広い英語プログラムが用意されており、言語と文化の優れた授業を提供している。

(2) プロフィール

大学生数	約12,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約250~350人(日本人が8~20%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に要する週数	16週
週当たりの授業日数	5日(週当たり計20時間、自習時間数はプログラムにより異なる)
研修期間	8月中旬 ~ 12月中旬
英語研修プログラム	5レベルに分けられる。それぞれのレベルに応じた、優れた英語研修プログラムが数多く用意されている。学生はアジア諸国から来ている。
キャンパス概要	キャンパスは近代的。学生会館、図書館、コンピュータ・ラボ、レクリエーションおよび水泳センターがある。全ての施設は1年中利用可能。夕方にはオウムが集まって来る。
正規授業受講可否	不可
ボランティア活動	15時間のボランティア地域交流科目あり。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	: 大学側が手配
ホームステイの食事	: 週16食



(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: ウォロンゴン市ー約22万人
最寄りの空港	: シドニー国際空港
最寄りの大都市	: シドニー(北に80km、列車で約1時間半)
気候	: 9—10月: 23°C、11—12月: 28°C(この時期オーストラリアは夏に当たる。)
生活費	: 平均的
近隣観光スポット	: シンビオ動物公園、ウォロンゴンビーチ & モール、ウォロンゴンアートギャラリー、キアマビーチ & ブロウホール、シドニー日帰り旅行、他

2. ニューキャッスル大学 (University of Newcastle)

University of Newcastle Language Centre
University Drive, Callaghan, NSW, Australia 2308
Phone: 61-2-4921-6536 Fax: 61-2-4921-7068
Contact: Michelle Picard, Deputy Director, English Language & Foundation Studies Center

(1) 紹介

ニューキャッスル市は、美しいオーストラリア東海岸に位置し、都市生活と田舎生活の両方の良さを堪能出来る町である。素晴らしいビーチ、穏やかな天候、気取りのないライフスタイルで生活費も比較的安い。レストラン、カフェ、公園、劇場、アートギャラリー、ショッピングセンター等があり、退屈しない。水泳、サーフィン、ボードセーリングを楽しめるビーチも沢山ある。キャンパスは、ユーカリの林に囲まれたニューキャッスル市の郊外にある。

(2) プロフィール

大学生数	約23,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約200人(日本人が約5%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に必要な週数	15週
週当たりの授業日数	5日
研修期間	8月下旬～12月下旬
英語研修プログラム	4レベルに分かれる。各レベルに合った優れた数多くの英語研修プログラムが用意されている。多くの学生はアジア諸国から来ている。
キャンパス概要	言語センターは大学の真ん中に位置している。レストラン、売店、理髪店、旅行代理店、本屋、保健室、郵便局、銀行を備えた学生会館も構内徒歩2分のところにある。スカッシュコート、テニスコート、クリケット、サッカー、野球が出来る運動場、バスケットボールコート、完備されたジムがある運動施設場も構内徒歩5分のところにある。
正規授業受講可否	不可
ボランティア活動	あり。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	大学側が手配
ホームステイの食事	週16食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: ニューキャッスル市ー約17万人
最寄りの空港	: シドニー空港
最寄りの大都市	: シドニー市
気候	: 温暖。夏は暑く、冬は温かい。
生活費	: 比較的安い
近隣観光スポット	: ブラックバット自然公園、ポートステファンドルフィン観光クルーズ、オーストラリア爬虫類公園、ハンターバレーぶどう園、他

3. オタゴ大学 (University of Otago)

English Language Center
PO Box 56, Dunedin, 9054, New Zealand
Phone: 64-3-479-5869 Fax: 64-3-479-5251
Contact: Paul Baker, Academic Manager

(1) 紹介

オタゴ大学はニュージーランドで最初に創設(1869年)され、その研究内容の質では常に首位に立つ。その構内の快適かつ機能的な校舎で授業を行う。

世界80カ国からやってきた 2500人の留学生を含む2万人の学生が大学および大学院で人文、保健科学、科学、ビジネスを学んでいる。

ダニーデンは留学生に温かい安全な都市。学術都市として国際的な知名度も高く、レストランやバー、カフェ、コンサート会場、美術館、博物館、スポーツ施設なども充実している。車で3時間ほど離れたクイーンズタウンでは、スキーやジェットボート、バンジージャンプ、ワイナリー見学などが楽しめる。

(2) プロフィール

大学生数	約20,752人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約200人(日本人が15-20%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に要する週数	16週
週当たりの授業日数	5日
研修期間	8月初旬~12月上旬
英語研修プログラム	各レベルに合った、優れた数多くの英語研修プログラムが用意されている。
キャンパス概要	世界25カ国以上から集まった学生が共に学んでいる。学生証の提示により、学内の情報サービス、24時間アクセス可能なコンピュータ施設、学生医療サービス、クラブやサークル、カフェなどを利用することができる。
正規授業受講可否	聴講は可能だが IELTS5.0、TOEFL500以上が望ましい。
ボランティア活動	あり。(週2時間程度)

(3) 宿泊設備

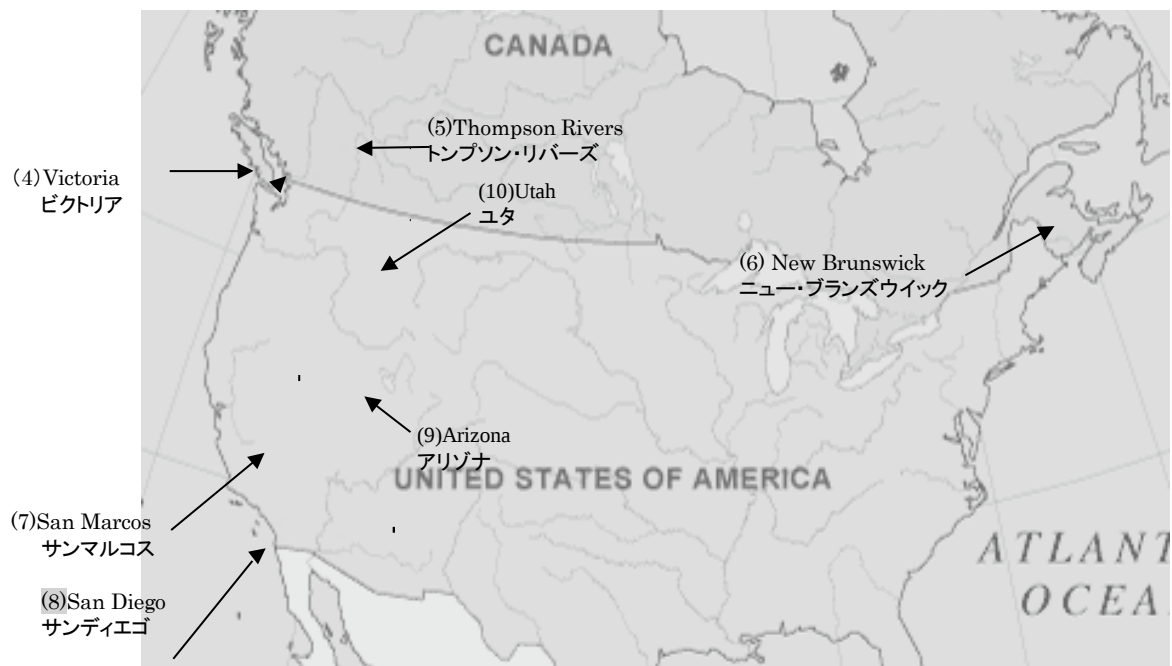
ホームステイ	大学側が手配
ホームステイの食事	1日3食(週21食)

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: ダニーデン市、12万人
最寄りの飛行場	: ダニーデン国際空港
最寄りの大都市	: ダニーデン市
気候	: 研修プログラムの開始時期は冬の終わりに当たる
生活費	: 中程度
近隣観光スポット	: ダニーデン市のスポットは http://www.insidersdunedin.co.nz/attractions-insider?offset=1482353213449 に詳しい。市外では、首都クイーンズタウン、歴史的な街オマルーなどがお勧めである。

Canada and the United States

カナダ及びアメリカ合衆国



Canada

- (4) University of Victoria
- (5) Thompson Rivers University
- (6) University of New Brunswick

United States of America

- (7) California. State University at San Marcos
- (8) San Diego State University
- (9) Arizona State University
- (10) University of Utah

4. ビクトリア大学 (University of Victoria)

English Language Centre
3800 Finnerty Road/PO Box 1700 STN CSC, Victoria,
British Columbia V8W 2Y2 Canada
Phone: 1-250-721-8950 Fax: 1-250-721-6276
Contact: Jackie Prowse, Director

(1) 紹介

ブリティッシュコロンビア州は、カナダで最も気候が温暖で、1年を通して過ごしやすい。ビクトリアは西海岸にある島で、バンクーバーとは飛行機、フェリーなどで結ばれている。昔、英国に支配されていたため、チューダー調やビクトリア調の建物が並び、英国の趣を残す。“庭の街”(City of Gardens)としても知られ、文化・娯楽施設や活発な商業地域を持つ州都である。ビクトリア大学はカナダ5大学のひとつに数えられ、広大な敷地内にあらゆる施設を備えている。アジア太平洋地域の研究が盛んなことで知られる。

(2) プロフィール

大学生数	約17,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約400人(日本人が約30%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に要する週数	6週(4週と12週の2期に分かれる)
研修期間	8月初旬～12月初旬
英語研修プログラム	各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。クラスの規模は小さい。学生はアジア、南米、ヨーロッパ諸国から来ている。
キャンパス概要	街の中心部から徒歩15分でビーチへも歩いていける距離にある。公園のように美しい敷地内には、図書館、コンピュータ・ラボ、運動施設(ジム、体育館、屋内外プール、テニス・スカッシュコート等)、レストラン、旅行代理店、売店、郵便局、映画上映室を備えた学生会館がある。
正規授業受講可否	IELTS6.5以上で聴講可能(有料)
ボランティア活動	あり

(3) 宿泊設備

学生寮	サマーコース(前期)で利用
学生寮の食事	週21食
ホームステイ	後期に利用。大学側が手配
ホームステイの食事	週21食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: ビクトリア市ー約94,000人
最寄りの空港	: ビクトリア空港(バンクーバーから乗り継ぎ)
最寄りの大都市	: バンクーバー市
気候	: カナダの中では温暖
生活費	: 日本の平均的な物価に比べて安め
近隣観光スポット	: ブッチャート・ガーデン、ゴールドストリーム国立公園(秋には産卵のため川を上るサーモンが産卵を見ることができる)、BC 王立美術館、ビーコン・ヒル公園、カヤック、鯨ウォッチング

5. トンプソン・リバーズ大学 (Thompson Rivers University)

English as a Second Language Program

900 McGill Road/PO Box 3010, Kamloops

British Columbia, V2C 5N3 Canada

Phone: 1-250-371-5835 Fax: 1-250-828-5140

Contacts: Dian Henderson, ESL Chairperson and Rika Kimura, International Student Advisor

(1) 紹介

大学があるカムループ市は、バンクーバーと世界的に有名なスキー場のあるバンフの間に位置する人口約8万人の小さな町である。治安が良く、人々は親切で、語学研修生には過ごしやすい町である。

(2) プロフィール

大学生数	約14,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約4700人(日本人が1%以下) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に要する週数	16~17週
週当たりの授業日数	5日
研修期間	8月下旬 ~ 12月中旬
英語研修プログラム	5レベルに分かれる。各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。クラスの規模は小さい。
キャンパス概要	約10万平方メートルの広大な構内にはあらゆる施設が整っている。学生会館、運動施設、図書館、コンピュータ・ラボ、レジャー施設等があり、学内で十分に学び、楽しめる。アクティビティプログラムもある。
正規授業受講可否	IELTS 5.5以上で1コマ、6.0以上で3コマ受講可能
ボランティア活動	あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	大学側が手配
ホームステイの食事	週21食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: カムループ市ー約10万人
最寄りの空港	: カムループ空港(バンクーバーから乗り継ぎ)
最寄りの大都市	: バンクーバー市(飛行機で50分、車で4時間)
気候	: 寒冷(北海道程度)、湿度が低い
生活費	: 日本の平均的な物価に比べて安め、バンクーバーより安め
近隣観光スポット	: サンピークススキー場、ウェルス・グレイ・プロビンシャル公園、シャスワック湖、ケロウナ、バンクーバー、バンフ、他

6. ニュー・ブランズウィック大学 (University of New Brunswick)

English Language Programme

College Hill/PO Box 4400, Fredericton, New Brunswick E3B 5A3 Canada

Phone: 1-506-453-3564 Fax: 1-506-453-3578

Contacts: Colleen Meagher, Director, Shawna Kirkbride, International Marketing Administrator

(1) 紹介

大学があるニュー・ブランズウィック州の州都であるフレデリクトン市は、300年前に出来た古い街で、歴史的価値の高い建物が多く残っている。ゆったりと流れる幅広いセント・ジョン川と、それを見下ろすような丘は、なだらかで豊かな木々に覆われ、大学を含めた街全体に特別な趣きを与えている。「赤毛のアン」の作者であるL. M. モンゴメリーの住んだプリンス・エドワード島や、今は博物館になっているモンゴメリーの住居は日帰りで行ける距離にある。市内では英語だけでなく、フランス語を話す人も多く見かける。

(2) プロフィール

大学生数	約1,400人*年によって異なる。
語学研修生数	約230~360人(32%が日本人)*年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に必要な週数	16週
週当たりの授業日数	原則5日(土曜日に授業が行われる場合もある)
研修期間	9月上旬~12月中旬
英語研修プログラム	elementary から high advanced まで9レベルに分かれる。少人数制の超集中型プログラムであり、学生の語学能力は飛躍的に伸びる可能性がある。
キャンパス概要	ニュー・ブランズウィック大学は1785年に設立され、北米大陸に現存する最も古い公立大学の1つである。古代美術の講義棟はカナダで現在でも使用されている大学の建物としては最も古く、歴史的町並みと川を見下ろす丘の上に立っている。特に秋の紅葉は素晴らしく、学生や大学を訪れる人たちの大きな楽しみの一つとなっている。
正規授業受講可否	英語レベルによって聴講可能。教員がケースバイケースで対応する。
ボランティア活動	あり

(3) 宿泊設備

大学寮のみ(複数の寮から選択する(詳細はホームページ参照))

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: フレデリクトン市ー約6万3千人
最寄りの空港	: フレデリクトン空港(モントリオール国際空港またはハリファックス空港経由)
最寄りの大都市	: モントリオール市(521 マイル) 米国、ボストン市(408 マイル)
気候	: 秋は肌寒い程度だが、12月(11月からの場合もある)は降雪が多く、非常に寒い。
生活費	: 中位から上
近隣観光スポット	: フレデリクトンで秋に特にお勧めは、キングス・ランディング・ヒストリカル・セトルメント、ハーベスト・ジャズ & ブルース・フェスティバル

7. カリフォルニア州立大学サンマルコス校 (California State University San Marcos)

American Language & Culture Program (ALCI)

333 South Twin Oaks Valley Road, San Marcos, CA 92096-0001

Phone: 1-760-750-3200 Fax: 1-760-750-3779

Contact: Grant Parsons, Director, Keseniya Gregory, Associate Director, Junko Miyoshi Sweeney,
Representative for Japan

(1) 紹介

大学があるサンマルコス市は、サンディエゴ市街から約50キロの地方都市で、サンマルコス丘陵地帯に位置する。サンディエゴ動物園や、ディズニーランド、サンファン・カピストラノ伝道所等の観光名所や、ビーチ、山岳地帯、砂漠などへも車で2時間程度で行ける。同大学は在学生の97%がカリフォルニア州出身。地域密着型の大学と言える。

(2) プロフィール

大学生数	約17,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約120人(日本人が約20%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし。
研修に要する週数	16週
週当たりの授業日数	5日(金曜日は休みの場合もある)
研修期間	8月中旬～12月初旬
英語研修プログラム	5レベルに分かれる。コミュニケーション、アメリカ文化、集中アカデミック準備プログラム等のプログラムがあり、授業は週18時間～25時間。会話のパートナーとしてサンマルコス大学の学生が付く。高い英語力を持った学生には、正規の授業科目受講の機会が提供される可能性がある。
キャンパス概要	1989年創立の新しい大学である。建物や施設も新しい。サンディエゴ郊外に位置する。
正規授業受講可否 ボランティア活動	オリエンテーションでのレベル分けテストレベル 4-5 で可能 あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	FA Homestay によって手配される。
ホームステイの食事	週16食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: 約9万5千人
最寄りの空港	: サンディエゴ空港(車で50分)
最寄りの大都市	: サンディエゴー約150万人
気候	: 一般的に温暖。夏季は日差しが強く気温が高いが、乾燥している。
生活費	: 宮崎に比べて若干高め
近隣観光スポット	: サンディエゴ、シーワールド、サンディエゴ動物園&サファリパーク、バルボア公園、ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ、他

8. サンディエゴ州立大学 (San Diego State University)

American Language Institute (ALI)

5250 Campanile Drive, San Diego, CA 92182-1914 USA

Phone: 1-619-594-3644 Fax: 1-619-287-2735

Contact: Barbara Bass, Executive Director

(1) 紹介

最高ランクに入るカリフォルニアの州立大学に学びながら、南カリフォルニアの魅力あふれる生活が楽しめる。サンディエゴはすがすがしい気候、様々な野外活動、健康的なライフスタイルを実現できる都市として、全米で最も住んでみたい都市ベスト10に入っている。山にも海にも近い、恵まれた環境を持つ。ALI (American Language Institute)の規模は大きく、世界中から多くの留学生が英語の勉強に訪れる。英語上級レベルに達した学生には、大学の正規授業を受ける機会が提供される。

(2) プロフィール

大学生数	約33,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約550人(日本人が15%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に要する週数	17週
週当たりの授業日数	5日
研修期間	8月中旬～12月中旬
英語研修プログラム	集中型英語コミュニケーションプログラムとして、多レベル構成のプログラムを持つ。多くの国から学生が来ているが、中でもアジア諸国からの学生が特に多い。
キャンパス概要	キャンパスの広さは300エーカーあり、台地の上に位置する。建物はスペイン調である。通常大学に備わっている典型的な設備、例えば学生会館、コンピュータ・ラボ、図書館等に加え、世界的水準のアクアティック・センター(サーフィン、ボート、その他のウォーター・スポーツができる)なども持つ。
正規授業受講可否	不可
ボランティア活動	あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	大学側が手配
ホームステイの食事	週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: サンディエゴ市(全米第8番目の都市)ー約149万人
最寄りの空港	: サンディエゴ国際空港
最寄りの大都市	: ロサンゼルス(南端まで車で2時間半)
気候	: 温暖
生活費	: 中位から比較的高い程度
近隣観光スポット	: ファッション・バレー・モール、バルボア公園、シーワールド、サンディエゴ動物園、サファリパーク、他

9. アリゾナ州立大学 (Arizona State University)

American English & Culture Program (AECP)
PO Box 873504, Tempe, AZ 85287-3504, USA
Phone: 1-480-965-2376 Fax: 1-480-965-8529
Contact: Dianna Lippincott, Claire McLaughlin

(1) 紹介

アリゾナ州はカリフォルニア州とメキシコの間に位置し、グランドキャニオンとソノラン砂漠で有名である。1年のうち300日は晴天という典型的な砂漠気候。テンペ市は小さな街で、「太陽の谷(The Valley of the Sun)」、もしくは大フェニックスメトロポリタン地域として知られている。大学はレストラン、カフェ、映画館などが軒を並べる大通りに面する。

(2) プロフィール

大学生数	約51,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約200人(日本人が20%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし。但し、500点以上の学生は、ブリッジコースという大学入学予備コースで履修できる可能性がある。
研修に要する週数	17週
週当たりの授業日数	5日
研修期間	8月中旬～12月中旬
英語研修プログラム	アメリカ英語 & 文化プログラム(AECP)。6段階に分かれており、1クラス原則15人以下である。週21コマで課外活動も盛んである。
キャンパス概要	1885年設立。広大な公園のようなキャンパスは、様々な種類の樹木、花、サボテンに囲まれており、実際に国立植物園としても有名である。施設としては、24時間開館の図書館や240台以上設備しているコンピュータ施設のほか、学生会館にはレストラン、コンビニエンスストア、ビリヤード場やボーリング場もある。レクリエーションセンターには、ジム、屋外プール、ラケットボールコート、テニスコート、サッカーやソフトボール用運動場、バレーボールコート等がある。
正規授業受講可否	TOEFL iBT57以上で3単位まで可能
ボランティア活動	あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	OverECS, Ltd.社によって手配される。
ホームステイの食事	週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: テンペ市ー約19万人
最寄りの空港	: スカイハーバー国際空港(車で15分)
最寄りの大都市	: フェニックスー人口130万人(車で30分)
気候	: 晴天の日が多く乾燥している。
生活費	: 日本の平均的な物価よりも若干安め
近隣観光スポット	: 楽器博物館、デザート植物園、フェニックス・ダウンタウン(プロ野球やバスケットボールゲーム観戦、美術館、レストラン、ショッピング)

10. ユタ大学 (University of Utah)

English Language Institute
201 Presidents Circle, Salt Lake City, UT 4112, USA
Phone: 1-801-581-4600 email: eli@utah.edu
Contact: Casey Poe, Lisa Fuller

(1) 紹介

大学が位置するソルトレイクシティはアメリカの主要都市の中でも、治安が良く、比較的物価も安い。安全で、清潔で、効果的な公共交通網があり主要国際空港からも近い。また、主要な国立公園や山々、スキー場など、アメリカでも有数のアウトドア・エリアへのアクセスが良いことでも知られる。ユタ大学の授業料、地域のホームステイ費用も低く、経済的にアメリカを満喫できる。ユタ州民のほとんどが英語を主要言語としているため、英語力向上には適した言語環境だといえる。ユタ州は経済成長率が高く、失業率が低い。

(2) プロフィール

大学生数	約32,760人 * 年によって異なる。
語学研修生数	約110人(日本人が35~40%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし。
研修に要する週数	16週
週当たりの授業日数	4日
研修期間	8月中旬~12月中旬
英語研修プログラム	英語力別クラス(レベルは8段階)。
キャンパス概要	ユタ大学は州を代表する教育機関であり、アメリカ西部で最も優れた教育機関のひとつと評価されている。また、州都であり最大の都市であるソルトレイクシティに位置しているため、ユニークな活動の機会を提供している。キャンパスは、カルフォルニア大学バークレー校やUCLAといった他の主要校とともに、PAC12カンファレンスに参加するD1の主要大学である。
正規授業受講可否	英語力によって可能(有料)
ボランティア活動	あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	OverECS, Ltd.社によって手配される。
ホームステイの食事	週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: ソルトレイク市ー約20万人
最寄りの空港	: ソルトレイクシティ国際空港(車で90分)
最寄りの大都市	: ソルトレイクシティ
気候	: 晴天の日が多く乾燥している。
生活費	: 米国内にある他のサイトよりは安め。
近隣観光スポット	: ビッグ&リトルコットンウッドキャニオン、パークシティ、サンダンス、ザイオン国立公園、ブライスカニオン国立公園、イエローストーン国立公園

England

イギリス



London
ロンドン

(11) Canterbury
Christ Church
University
カンタベリー

11. カンタベリー・クライスト・チャーチ大学 (Canterbury Christ Church University)

General English Language Programme
North Holmes Road, Canterbury, Kent, CT1 1QU UK
Phone: 44-1227-767700 Fax: 44-1227-470442
Contact: Mark Hall, International Partnerships and Projects Manager

(1) 紹介

英国南東部の歴史ある街カンタベリーにあり、ロンドンからは列車で東に2時間、イギリス海峡から1時間以内のところに位置する。この街には世界遺産となった歴史的名所が3箇所(11世紀に建造されたカンタベリー大聖堂、6世紀建造のセント・オーガスティン大修道院、同じく6世紀建造のセント・マーチン教会)あるほか、中世の建造物が数多く残っており、町全体が歴史の香りが漂うたたずまいを見せている。

(2) プロフィール

大学生数	約14,000人 * 年によって異なる。
語学研修生数	夏期: 約80名、秋期: 約60名(日本人が25%) * 年によって異なる。
必要TOEFL点数	なし
研修に必要な週数	17週
週当たりの授業日数	5日
研修期間	8月下旬～12月下旬
英語研修プログラム	リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、ボキャブラリー、グラマーに加え、選択科目として、地域社会及び英国研究、歌、ドラマ、ビデオ制作、映画研究、雑誌編集、文学、時事研究等がある。
キャンパス概要	こぢんまりとした近代的なキャンパスである。セント・オーガスティン大修道院跡に隣接している。イングリッシュランゲージプログラムの建物は18世紀の歴史的な建造物である。
正規授業受講可否	不可
ボランティア活動	あり

(3) 宿泊設備

ホームステイ	大学側が手配
ホームステイの食事	週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	: カンタベリー市ー約6万7千人
最寄りの空港	: ヒースロー空港(キャンパスまで列車で1時間半から2時間)
最寄りの大都市	: ロンドン
気候	: 温暖、多湿、曇りがち
生活費	: 平均的な日本の物価と同程度
近隣観光スポット	: ホイットスターブル、ドーバー城、リーズ城、ロンドン、他

University	Program/Location	Contact Person(s)	Accommodation
University of Victoria	Division of Continuing Studies English Language Centre (ELC) University of Victoria 3800 Finnerty Road Victoria, BC, V8W 2Y2, Canada Tel: +1-250-721-8950 Fax: +1-250-721-8774 https://continuingstudies.uvic.ca/elc/	Christa Kutzner (Registration Services) christak@uvic.ca	Uvic Homestay Program Tel: +1-250-472-4433
Thompson Rivers University (TRU)	English as a Second Language Program English Language Learning and Teaching Department (ELLT) 805 TRU Way, Kamloops, BC V2C 0C8 Canada Tel: +1-250-572-2001 Fax: +1-250-828-5140 https://www.tru.ca/programs/esl.html	Laurie Robinson (Director of International Partnership and Business Development) larobinson@tru.ca Rika Kimura (International Student Advisor) rkimura@tru.ca	TRU Housing Department
University of New Brunswick (UNB)	English Language Program (ELP) College of Extended Learning University of New Brunswick P.O. Box 4400 Fredericton, NB E3B 5A3, Canada Tel: +-506-453-3564 Fax: +1-506-453-3578 https://www.unb.ca/cel/elp/index.html	Geoff North (Coordinator) English Language Programme Email: elp@unb.ca Erica Thomas (Curriculum Specialist) Email: e.thomas@unb.ca elp@unb.ca	UNB Fredericton Residence Administration Office Dormitory: Neill House
San Diego State University (SDSU)	Intensive English for Communication (IEC) American Language Institute (ALI) San Diego State University 5250 Campanile Drive San Diego, CA 92182-1914, USA Tel: +1- 619-594-5970 Fax: +1-619-287-2735 https://ali.sdsu.edu/	Renee Rodriguez (Interim ALI Director) rrodriguez10@sdsu.edu Michael Dietz (Director, International Services) mdietz@sdsu.edu	OvECS Ltd. 625 N. Gilbert Rd., Suite 202, Gilbert, AZ 85234, USA Tel: +1-480-633-8191 Fax: +1-480-633-8193 Katie Palmer (Senior Director) Homestay@ovecs.com

California State University San Marcos (CSUSM)	American Language and Culture Institute (ALCI) 333 South Twin Oaks Valley Road, San Marcos, CA 92096-0001, USA Tel: +1-760-750-3200 Fax: +1-760-750-3779 alci@csusm.edu https://www.csusm.edu/global/alci/	Grant Parsons (Director, International Enrollment and Partnerships) gparsons@csusm.edu Kseniya Gregory (Assistant Director) kgregory@csusm.edu Erin Reed (Sr. Student Services and Admissions Advisor, DSO/ARO) ereed@csusm.edu	FA Homestay 13223 Black Mountain Road #231, San Diego, CA 92129, USA Erasha Galewelage for homestay placement planning erasha@faius.com Jocelyn Harris for student coordination after arrival jharris@faius.com Mobile: +1-760-644-5325
Arizona State University (ASU)	Global Launch Arizona State University 1711 S. Rural Road, Tempe, AZ 85281, USA PO Box 879701, Tempe, AZ 852878-9701 Tel: +1-480-965-2376 Fax: +1-480-965-8529	John Deal (Asst. Director Program Services) jdeal@asu.edu Cell: +1-808-298-9190 Andrea Haraway (Program Manager, ASU-USA Pathways Program) andrea.haraway@asu.edu	OvECS Ltd. 625 N. Gilbert Rd., Suite 202, Gilbert, AZ 85234, USA Katie Palmer (Senior Director) homestay@ovecs.com Tel: +1-480-633-8191 Fax: +1-480-633-8193
University of Utah	English Language Institute 201 Presidents Circle, Salt Lake City, UT 4112, USA Tel: 1-801-581-4600	Casey Poe (Director, English Language Institute) Casey.poe@utah.edu 1-801-587-9585 Lisa Fuller (Academic Director, English Language Institute) lisa.fuller@utah.edu 1-801-585-7595 eli@utah.edu	OvECS Ltd. 625 N. Gilbert Rd., Suite 202, Gilbert, AZ 85234, USA Katie Palmer (Senior Director) homestay@ovecs.com Tel: +1-480-633-8191 Fax: +1-480-633-8193
University of Wollongong (UOW)	UOW College Study Tours University of Wollongong College Building 30, University of Wollongong Northfields Avenue, Wollongong NSW 2522 Australia Tel: +61-2-4252-8829 or + 0412 090 074 Fax: +61-2-4228-5201	Marina Wilson (Study Tour Coordinator) marinaw@uow.edu.au Coco Toh (Admissions & Study Tours Officer) coco@uow.edu.au	UOW Housing Department

University of Otago	University of English Otago Language Centre University of Otago PO Box 56, Dunedin 9054, New Zealand Tel: +64-3-4795869 Fax: +64-3-4785251 http://www.otago.ac.nz/uolcfy/index.html	Paul Baker (Director) paul.baker@otago.ac.nz Jo Fletcher (Deputy Academic Coordinator) Jo.fletcher@otago.ac.nz Jasmine Chu j.chu@otago.ac.nz	UOLC Housing Department Mary Powell (Homestay Manager) homestay@otago.ac.nz
Canterbury Christ Church University (CCCU)	General English Language Program Canterbury Christ Church University North Holmes Road Canterbury, Kent, CT1 1QU Tel: +44-1227-767700 www.canterbury.ac.uk	Laura Spencer (International Development Manager) laura.spencer@canterbury.ac.uk Isobel Goodchild (International Programs Officer) isobel.goodchild@canterbury.ac.uk	CCCU Housing Department

参考資料—4

残高証明書—学生本人名義口座の場合

THE MIYAZAKI BANK,LTD. CERTIFICATE OF BALANCE

Telephone: + 81 - 085-31-7810
Facsimile: + 81 - 085-32-4815
SWIFT: MIYAJPJT

In accordance with your request, we certify that our records indicate of the following balance(s)
to your credit/outstanding loan(s) in your name with us at the close of business on 16-Jun-2022 .

Type of Account	Account No.	Balance	Remarks
ORDINARY DEPOSIT		JPY 1,420,979.00	@ 134.31 USD 10,579.85
NOTHING AS FOLLOWS			@
			@
			@
			@
			@

No correction in figures

ADDRESS:

17-Jun-2022

Date of Certificate

NAME:



Yanagimaru Branch

Sachiko Sano

(Authorized Signature)

TO : [REDACTED]

These funds will be used in support for

学生の名前

Parental signature :

口座名義人の署名

(0143730) Date: May 6, 2022

The Juhachi-Shinwa Bank, Ltd.

ONJOJO BRANC

Yoshinobu Nakaji

MANAGER

WE HEREBY CERTIFY THAT THE BALANCE OF DEPOSIT(S) WE HOLD IN YOUR NAME SHOW(S)
THE BELOW AMOUNT(S) AS AT THE CLOSE OF BUSINESS
ON : 2022. 4.28

ISSUED BY
FUKUDA MAIN
OFFICE

PAGE:1

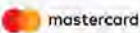
[illegible]

(80101338010061102TY4)

海外留学時のお金の準備方法

	特徴	注意点
1. 外貨現金	・空港の両替所でも間に合う ・現地着後にすぐに使用できる	・必要最低限 ・小額紙幣を準備 ・盗難紛失
2. クレジットカード	・利用後、約1か月後に支払う後払いカード ・ショッピングやオンラインのお買い物 ・現金は引き出せない（一部）	・利用限度額が低い ・Visa/Mastercardを準備 ・日本の銀行口座に残高が必要 ・年会費無料のカード （例：楽天カード、PayPayカード）
3. デビットカード	・銀行が発行する国際キャッシュカード ・銀行口座直結の即時決済 ・Visaブランド 三井住友、三菱UFJ、りそな銀行	・Visa/Mastercardを準備 ・日本の銀行口座に残高が必要 ・為替レートが日々変動する ・暗証番号ロックの解除不可
4. 海外送金	・ご家族から海外の銀行口座への仕送り	・海外での口座開設が困難 ・送金手数料が高い（5,000～8,000円/回） ・送金時に必要書類の準備 （本人確認書類、マイナンバー）

重要：滞在中のトラブルに備え、数種類の手段をご準備ください



キャッシュパスポートプラチナとは？

トラベラーズチェックの安全性やクレジットカードの利便性を兼ね備えた、
『海外専用のトラベルプリペイドカード』です。



事前に入金（チャージ）していただき、
そのチャージ分のみご利用いただけます。



★交通系ICカードやwaonに類似したものです。

★簡単

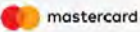
●未成年の方でもお申込みできます。※要:親権者同意 プリペイドカードなので、審査や年齢制限はございません。

★安心

●お客様の銀行口座には紐づきません 不正利用時のリスクを最小限

★便利

●世界中のMasterCard®加盟店、対応ATMで使えます。



マルチカレンシー機能

キャッシュパスポートプラチナは1枚のカードに9通貨が保有できるマルチカレンシーカードです。（日本円、米ドル、ユーロ、英ポンド、豪ドル、NZドル、カナダドル、シンガポールドル、香港ドル） 必要な通貨（アカウント）に、必要な分だけチャージしてご利用いただけます。

日本国内の金融機関窓口・ATM・ネットバンキングから、**日本円**でお客様専用口座にお振込みください。



インターネット
バンクから



銀行窓口
ATMから



マイアカウントより希望通貨のチャージ予約し、発番された予約番号でお振込み頂く事でチャージが完了いたします。

【日本円】

日本円のままチャージされます。

※海外でご利用の度に、日本円⇒外貨に両替
※為替手数料 4%



日本/円

【外貨の指定口座にお振込みの場合】

あらかじめ、日本円⇒外貨に両替してチャージします。

※ご入金確認日や事前予約日のキャッシュパスポートプラチナのレートにて固定されます



アメリカ/
米ドル



EU/
ユーロ



イギリス/
英ポンド



オーストラリア/
豪ドル



ニュージーランド/
NZドル



カナダ/
カナダドル



シンガポール/
シンガポールドル



香港/
香港ドル

mastercard

キャッシュパスポートプラチナご利用方法

世界210以上の国や地域のMasterCard®対応ATMで現地通貨をお引き出し！
または、MasterCard®加盟店でキャッシュレスでお支払い！

チャージが完了したら、2通りでご利用いただけます！

2Wayで利用可能!



ご出発前に
日本円をご入金



1 MasterCard® ATMで引き出した現地通貨でお買い物



外貨



2 MasterCard®加盟店でキャッシュレス決済



コンタクトレス機能付き

mastercard

海外渡航に最適なキャッシュパスポートプラチナ（その1）

1. キャッシュレスでお買い物

Mastercard®が利用できるスーパーやファストフードなど、現金払いに代わってカード払いが可能です。※ご利用には限度額があります

2. ATMで現金引き出し

MasterCard®対応ATMは、街中はもちろん学校内でも設置されており、現地大手銀行のATMがご利用いただけます。



3. 使いすぎないプリペイドタイプ

残高以上ご利用はできななので使い過ぎの心配はありません。（クレジット機能はありません）



4. 残高が不足した場合

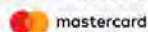
お客様専用振込口座に入金いただく事で簡単に残高が増やせます。（国内振り込み）

注）マイアカウントでチャージ予約番号を取得してください



5. 非接触決済機能搭載

※コンタクトレスマークのある加盟店ではスピーディーなお支払いが可能になります



海外渡航に最適なキャッシュパスポートプラチナ（その2）

6. 「マイアカウント」「モバイルアプリ」で利用履歴や残高を確認できます

専用ウェブサービス「マイアカウント」「モバイルアプリ」は、24時間365日いつでもご利用いただける無料のサービスです。

ご利用の一時停止、再開が可能です。



7. トラブル時はカードサービスが無料で使えます

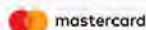
カードサービスが、24時間365日留学生の方々をサポートいたします。

緊急時、または盗難・紛失にあった場合は、至急こちらのサービスまでご連絡ください。



POINT !

簡単・便利・安心 の三拍子そろったお財布がわりのカードだから、
多くの留学生の方々にご利用いただいております。



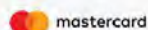
キャッシュパスポートプラチナの手数料と限度額

手数料

入金手数料	無料								
カード再発行手数料	無料								
海外ATM引出手数料 ※1	円	米ドル	ユーロ	英ポンド	豪ドル	ニュージーランドドル	カナダドル	シンガポールドル	香港ドル
	¥200	\$2	€1.75	£1.5	\$2.5	\$2.75	\$2	\$2.5	\$14
ショッピングでの利用手数料	無料								
月間カード管理手数料 ※2	無料(12ヶ月ご利用または入金がない場合には13ヶ月目より毎月100円または外貨相当額が発生します。)								
カード払戻手数料 ※3	550円(税込) ※払戻はご本人名義の銀行口座に限ります。								
為替手数料 ※4	4%								

限度額

最小入金金額	10,000円
1回あたりの入金限度額	1,000,000円
残高限度額 ※5	1,000,000円または外貨相当額
12ヶ月の入金限度額 ※6	5,000,000円または外貨相当額
ATM引出限度額(24時間) ※7	150,000円または外貨相当額
ショッピング利用限度額(24時間)	850,000円または外貨相当額



申込の流れ~カード有効化

1

cashpassport.jpにアクセス

ホームページ上で必要情報を入力しお申込みください。
お申込み完了後、弊社からのメールに従って必要書類の画像をご提出ください。
※必要書類 マイナンバーカード(必須)および・運転免許証・保険証・特別永住証明書のいずれか1点(両面)が必要です。

2

カード受領

お客様のお申込み内容を確認します。確認完了後、書留郵便でお届けします。
※確認の結果お申込みをお断りする場合があります。

3

ご利用開始の手続き(カード有効化)

カードに同封されたご案内にしたがい、カードを有効化してください。

4

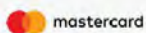
チャージとご利用

金融機関を通じて指定口座に日本円をお振込みください。
世界210以上の国や地域のMastercard対応ATMや加盟店でご利用いただけます。

5

残高・ご利用明細確認

マイアカウント(会員専用ウェブサイト)またはアプリでの確認も可能です。



必要書類

画像アップロード依頼メールにしたがって、マイナンバーカード(必須) および以下いずれか1点、合計2点の表裏画像をアップロードください。

・マイナンバーカード(必須)



・免許証



・保険証



・特別永住者証明書



※マイナンバーカードの返納手続きをする場合は手続き前にお申込ください。

いずれか1点

【お問い合わせ】

マスターカードプリペイドマネージメントサービシーズジャパン株式会社
〒150-8512 東京都渋谷区桜丘町26番1号 セルリアンタワー16階

お問い合わせ先 : cardservicesjp@mastercard.com

参考資料-6 シムカード

宮崎国際大学様 海外現地SIMカード・eSIMのご案内



ポイント1

渡航前にご契約・受け取りが可能！電話番号も事前にわかります。

ポイント2

現地通信会社のサービスを利用する為に現地基準価格！
契約の縛りはありませんので短期から長期まで安心してご利用可能。

ポイント3

クレジットカードのみで簡単契約。パスポートなどは必要なし！



海外でSIMカードサービスをご利用いただくには？

SIMロック解除は必ず渡航前におこないましょう！

一般的に日本で販売されているスマートフォンにはSIMロックがかかっております。
解除する事によって世界中でご利用いただけるようになります。

<SIMロック解除方法>

- ・大手通信会社で契約されている場合、マイアカウントからSIMロックの解除ができます。
MVNOで契約されている方、各キャリアにお問合せください。

<SIMロック解除条件>

- ・iphoneの場合は、設定→一般→情報→SIMロック→「SIMロックなし」であればSIMロック解除済みです。「SIMロックあり」であればSIMロック解除が必要です。
- ・androidの場合は、各キャリアにお問合せ下さい。

* androidご利用の方のみ周波数の確認が必要です。iPhoneとは違いSIMロックの解除をおこなったとしても電波を拾えない可能性がございます。詳しくは海外携帯ICHIBAまで。



到着後ご利用開始

到着後SIMカードを差し替えると、eSIMの方で設定済みであれば
「現地電話番号」「現地プラン」
で空港到着からすぐにご利用いただけます。

日本でご利用中のアプリは現地でも引き続きご利用可能です。
*念の為バックアップを取られる事をお勧めします。

サービス対象国



アメリカ



カナダ



オーストラリア



ニュージーランド

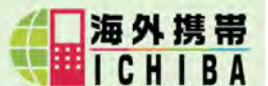


イギリス

各国料金のご案内



QRコードからプランの
詳細を閲覧いただけます。



アメリカ 	
月額料金	\$30～
初期費用	\$ 34.99～
アメリカ国内通話	かけ放題
アメリカ国内SMS	無制限
国際通話	日本宛国際通話付き
インターネット	10GB～
日本語サポート	アメリカ事務所にて
その他特徴	eSIMご用意

カナダ 	
月額料金	\$35～
初期費用	5,478円～
カナダ国内通話	かけ放題
カナダ国内SMS	無制限
インターネット	7GB～
日本語サポート	現地エージェント
その他特徴	eSIMご用意

デザリングとは？

デザリングとはスマートフォンをWi-Fiルーターの代わりにし
お持ちのタブレット、PCなどへ電波を飛ばしインターネットの利用をすること

各国料金のご案内



QRコードからプランの詳細をご確認いただけます。



オーストラリア 	
月額料金	\$55～
初期費用	6,578円
AUS国内通話	かけ放題
AUS国内SMS	無制限
インターネット	50GB～
日本語サポート	現地エージェント
その他特徴	150GBプランあり

ニュージーランド 	
初期費用	¥7,678～
継続	現地のコンビニで可
NZ国内通話	かけ放題
NZ国内SMS	無制限
インターネット	10GB～
日本語サポート	メール対応
その他特徴	唯一の日本販売先

イギリス 	
初期費用	¥5,478～
継続	現地のコンビニで可
UK国内通話	かけ放題
UK国内SMS	無制限
インターネット	5GB～
日本語サポート	メール対応
その他特徴	ヨーロッパで使用可

申し込みの流れ



* アメリカ、カナダ、オーストラリアは、初期費用の他に、現地の携帯会社への登録が必要になります。



申し込み手続き	日本のご自宅へ郵送 Or メールでお知らせ	渡航2日前までに 電話番号をお知らせ	SIMの差し替え	到着後ご利用開始
				

<海外携帯ICHIBA Tokyo Office>

※ お問い合わせ

〒150-0034 東京都渋谷区代官山町2-7 シャトレ代官山ビル203
電話番号: 03-3496-5678 メール: info@world-keitai.com
営業時間: 月曜-金曜 11:00-18:00(土日祝日はお休み)

お問い合わせはこちらまで

03-3496-5678

